

幼 兒 教 育

第 三 十 四 卷 六 月 號 第 六 號



東 京 女 子 高 等 師 範 學 校 內

日 本 幼 稚 園 協 會

東京高等師範學校教授

文學博士 小野島右左雄先生著

好評 三版

最近心理學概説

文檢必 讀の要 書最近 の心理 學漸く 完成す

上卷

定價三圓五十錢 送料二十二錢

下卷

定價三圓五十錢 送料二十二錢

合輯

定價五圓八十錢 送料三十三錢

本書の最も特長とすべき點は全卷一貫せる思想を以て凡ゆる精神事實を巧に解明し全卷暗示に滿ち本書上下二卷を味讀すれば一般心理學・兒童心理學・青少年心理學・發達心理學・個性心理學・社會心理學・變態心理學・動物心理學・教育心理學等の凡ゆる心理學の一般的知識を獲得すべきは勿論、學者は本書に依つて斯學の一體系を知るに止まらず科學の方面論・生活論・理學の成立と新しき哲學の暗示を受け、教師は生徒兒童の心的體制の理論と教育の新方法を教へられ、一般人は人間の具象的心的體制の最も即事的なる論理と應用を示され斯くてこそ心理學は科學の先陣に立ち此思想國難の打開に資す。振つて萬人の乞必讀。

性格心理學と兒童研究

菊判全一冊洋綴 定價二圓七十錢 送料廿二錢

心理學要論

菊判全一冊洋綴 定價二圓 送料廿二錢

兒童研究、性格心理學に主點を置き各種の新研究を發表し、猶ほ最近心理學の動向を検討して最も新なる斯學上の諸問題を提出し之等に對し教授獨自の立場を展開してその進展に寄與すれば一般心理學徒及び教育家篤學者の御必讀を乞ふ。

現代の科學的心理學の一般理論を一つの簡單なる體系の中に織り成して叙説せる心理學の要論である。舊來の陳腐なる心理學の形骸を脱して現代將來の人間の動向を正しく理論づけるべく、終始一貫せる主張の下に正確なる科學の所産を披瀝し猶ほ常に豊富なる暗示を與へてある。

文藝學博士 小野島右左雄著

發行所 東京市牛込區 中野文庫館書店 振替電話 東京三三三 八二四七 二五七番

この夏の保育講習會

期日 場所 講師

自七月二十二日 至同 二十七日 六日間 午後一時より四時まで
東京女子高等師範學校

- 一 幼稚園に適切なる唱歌遊戯及び團體遊戯指導(二十二日より二十五日まで四日間)
東京女子高等師範學校助教授 戸倉ハル君
- 一 保育の實際に關する質疑應答(二十六日より二十七日まで二日間)
東京女子高等師範學校教授 倉橋惣三君

金貳圓五拾錢

會費 宿泊 申込

本校寄宿舎(常構内)で宿泊の御便宜を計ります。(文部省主催講習會員及び日本幼稚園協會講習會員共)
費用 一泊金壹圓貳拾錢(二食つき)

聽講、宿泊いづれも六月二十日より七月十五日まで、本會講習掛宛にお申込み下さい、御住所一及び奉職
所名)必ず御明記置き願ひます。(會費は申込と同時に日本幼稚園協會振替口座東京一七二六六番にお拂込
下さい、倉泊料は御入舎の上でお支拂ひ下さい)

文部省主催幼稚園講習が七月二十二日より同二十七日まで東京女子高等師範學校に於て開催せら
るゝ豫定に基き、その午後毎日右の通り本會主催の講習會を開催いたします。

東京女子高等師範學校附屬幼稚園内

昭和九年六月

日本幼稚園協會

小石川區大塚町三五

第六回 夏季保育講習會

毎年開きます夏講習が、いつも新しき點適切有益である事で皆様が喜んで下さいますので一層力を得て本年茲に一流の權威ある先生に御願ひ致しまして左の通り第六回目の講習を開きます

本年も五割引乗車の便利を取計らひ通用期間を昨年より早く長くいたして貰ひます

一、期日 七月廿八日より八月一日迄五日間

二、時間 午前八時より十二時迄
午後一時より五時迄

三、科目と講師

1. 幼稚園保育の本質(六時間)

東京女子高等師範學校教授
東京昭和保姆養成所講師兼顧問

倉橋惣三先生

幼稚園に於ける保育は其根本の本質に於て如何なるものであるか。如何なるものであるべきか。如何にすべきか。殊に保姆の持すべき心の用意、態度は如何にあるべきか等の重要問題につき講せらる

2. 幼児期に於ける日本精神の涵養(四時間)

東京文理科大學教授 文學博士 檜崎淺太郎先生

檜崎先生は曩に日本教育的心理學と教育革新の本道を此の二大著書によつて最近我國教育界に大なる響きを與へられて居る折柄茲に先生の蘊蓄を窺ひ教育の基礎である幼兒に日本精神の基礎を與ふるに如何にすべきかを闡明することは目下の急務であると思ふ

3. 性格の診斷と其取扱ひ方(六時間)

東京帝國大學助教授 青木誠四郎先生

昨年の講習では時間の關係で十分に參りませんでした。何と云つても此の方面の唯一の權威者です今年回は一々具體的に例を擧げて後理論的説明を與へ其應用まで進めていたいただきます

4. 幼兒の繪の見方。導き方。及び繪の見せ方(四時間)

清水良雄先生

畫家として大家であり童畫家として實に造詣深く幼兒の書ける繪を見る保姆の眼識。導き方。繪本の見せ方については先生の右に出る方は殆どないと云ふも過言ではありますまいか、こゝに皆様と此の講演によつて幼兒生活を一層豊かにする途を求めたいと思ひます

5. 手技製作(六時間)

東京女子高等師範學校教諭 及川ふみ先生

幼児の製作は先生を以て最も選を得たるものと確信します、
今回文部省で主権の保育講習に教授せらるゝものごと全く別種のものをお願いいたす事で皆様には最も
良いお土産を與へらるゝ事と信じます

6. 律動遊戯及び表情遊戯の理論と實際(四時間)

東京昭和保姆養成所長 土川五郎先生
瑞穂幼稚園長

専ら幼児に適した新作二十餘種に低中高學年のものを加へて教授練習す

理論之部は1. 2. 3. 4. の四科目 實際之部 5. 6. の二科目

四、區分

各三百名

五、定員

瑞穂幼稚園 東京市品川區大井原町五、二〇八

省線大井町驛下車城南バスにて原又は水神前下車一二分

六、會場

理論之部 參圓 實際之部 參圓 兼修五圓

七、會費

會費を添へてお申込の方に御送りいたします。七月二十日迄にお申込下さいませんと間に合ひません

購入使用期間は七月十日より八月十日迄の豫定
市及近郊から省線でお通ひの方は毎日割引券を差上げます

八、割引乗車券

五割引往復券 七月廿五日迄 東京市品川區大井原町五、二〇八 土川五郎宛

九、申込

爲替又は振替東京六九二一四番により申込むこと振替の方は裏面に講習と記入のこと

一〇、宿泊

本校寄宿舎を充用す一泊二食金壹圓貳拾錢のこと前以て申込まれたし

昭和九年六月

主 催

東京昭和保姆養成所

責任者

土川五郎

東京市品川區大井原町五二〇八

電話 大森二、二一〇番

振替東京六九二一四番

第六回 保育夏期講習會

主催 佛教保育協會
 後援 佛教各宗々務所

昭和九年七月二十七日より三十一日まで(但八月一日見學)

每日午前八時より午後三時まで

東京市小石川區表町傳通會館(市内電車傳通院前下車)

金貳圓五拾錢也

東京市淺草區淺草公園淺草寺幼稚園内

佛教保育協會夏期講習會事務所宛

申込期日 七月二十日まで(但定員超過の場合には期間中と雖もお断り)

定員 貳百名

宿泊 御希望の方には一泊二食付壹圓にてお世話いたします(申込書に其旨附記のこと)

鐵道賃割引 本講習に参加せらるゝ方に限り全國鐵道運賃三割引の特典があります

見學

講師及科目

幼稚園保育の眞精神

幼稚園保育の根本義に就て従事者の是非心得て頂かねばならない點を約四時間に互り懇切に御教示されることになつてお

東京女子高等師範學校教授

堀

七

藏氏(四時間)

第一班

築地本願寺經營幼稚園—新聞社—淺草寺經營幼稚園其他

第二班

上野寛永寺經營幼稚園—科學博物館—

佛教保育の理論及實際

東京女子高等師範學校教授
 本會副會長

關

寬

之氏(三時間)

幼児の唱歌指導法

前東京音楽學校教官 梁田

貞氏 (七時間)

佛敎保育とは何ぞや……：多年先生が御研究なさいましたことにつき簡易平明に講述されます
幼児に對する唱歌の實際指導に當つて種々困難なる點、注意せねばならぬ點を七時間に互つて指導されます、尙讀佛歌につきましても御指導されることになつております。

幼児の遊戯指導

東京女子高等師範學校助教 戸倉

ハル氏 (八時間)

幼兒の遊戯に就ては最も熱心に御研究されつゝある先生が最近に振付せられたるものを題材として最も幼兒に適した遊戯を親切に御教示されます。

手技製作の理論及實際

前帝都教育會保姆練習所教授 卜部

たみ氏 (五時間)

幼兒に對する談話法

久留島 武彦氏 (三時間)

如何にすれば幼兒にお話を聞かせ、見せ、することが出来るかを先生多年の御經驗を主として講述されます。

科外講義

婦人ご 教育

前文部政務次官 本會會長

安藤 正純氏

婦人ご 修養

中野高等女學校校長 本會副會長

富田 敦純氏

婦人ご 宗教

淺草寺貫首

大森 亮順氏

御注意

申込書御入用の方は左記本會夏期講習會事務所宛御申込下さい

東京市淺草區淺草公園園淺草寺幼稚園内

佛敎保育協會夏期講習會事務所

振替口座東京 七八六六七番

電話淺草 (三三三三番) 七二〇五番 内線三四番

第五回全國保姆夏季大講習會

一期間

八月六日より九日迄。自午前八時半、至午後四時半

會場

大阪府立、大手前高等女學校

(大阪市東區大手前町、大阪府廳北)

科目と講師

◎午前の部

一 幼兒の性能の鑑別法

東京帝國大學教授 文學博士 淡路圓治郎氏
幼兒保育上、現下の緊要問題なる、この新研究は、必ずや、幼兒保育に關係ある各位の見のがし能はざる重要事ならん(五時間)

二 幼稚園に於ける幼兒の性格理解と性格指導の問題

浪速高等學校教授 文學士 正木 正氏
正木教授は、多くの幼稚園に就いて、各種の實際的研究をなし、其の新研究を發表さる、幼兒の實際教育に當らるゝ保姆各位のオアシスならん(四時間)

三 新らしい保育の問題について

平安女學院専門學校教授
ランバンス女學院教授 マスター、オブアーツ 高森 富士女史
附屬、幼稚園主任

四 誤れる童話の使命と取扱法

紙芝居の理論と實際
尾關岩 二氏
尾關學士の新研究は誤れる童話の使命を論じ、正しい其取扱法を示し、且つ目下の重要問題たる紙芝居の理論と實際とを説破され、幼兒の藝術教育に正しい指針を與へるものである(二時間)

五 風變の新らしい手技の實習

三つ田手技研究所 三つ田花子女史
幼兒手技の新研究なる三つ田女史が新しく考案せる立體的の手技、廢物利用の手技(羅紗、空筒、鋸屑等)自然物利用の手技等の數多く、實際に役立つ保育資料が提供さる(四時間)

◎午後 の 部

六 幼稚園の遊技會、運動會に適切なる體育ダンス及

唱歌遊技、新作發表廿五種

久保氏は體育ダンス、舞踊を研究すること十數年。著書六十有種を算す。大日本新遊技研究所長 かつて歐米各國に一ケ年、外遊せし、我國幼兒ダンスの建設の第一人者なり。(八時間)

久保富次郎氏

七 幼稚園適切なる教育舞踊と幼兒音頭踊(新作發表二十有種)

戸谷舞踊研究所長 大日本新遊技研究所講師

戸谷俊子嬢

東京、エリアナ、パプロバ女史に師事し且つ若柳流新舞踊の名手也。其作は和洋を折衷し動的に、自然にリズムカルに按舞し、教育的にして新味と生氣を帶ぶるやさしき舞踊である。天才的の女流創作家なること毎年全国各地の講習に於いて等しく驚嘆さるることである。(八時間)

講習料 午前の部 金參圓。午後 の 部 金參圓。兼修金五圓

二食附金壹圓參拾錢にて指定旅館。大阪驛前。浮田旅館にて親切に世話す。

宿泊 七月末日迄に、會費を添へ。午前、午後を明記し、主催宛に書留若くは振替口座大阪

七一一四六番に申込みこと。手技の材料などの準備の都合上、なるべくお早く御申込頂くと幸です

資格 制限無し

大阪市西淀川區野里町一一三三

主催 大日本新遊技研究會

研究所 振替口座大阪七一一四六番 北區南森町交叉點北、森町ビル二階

久保氏著書
本會取次

體育ダンスと唱歌遊技	金壹圓半
體育的ダンス(其一)	各金六拾錢
唱歌遊技(其一)	各金六拾錢
體育的ダンス(其十)	各金六拾錢
唱歌遊技(其十)	各金六拾錢
教育的舞踊(其一)	各金六拾錢
唱歌遊技(其一)	各金六拾錢
教育的舞踊(其四)	各金六拾錢
唱歌遊技(其四)	各金六拾錢
幼兒のおどり(其一)	各金六拾錢
唱歌遊技(其一)	各金六拾錢
幼兒のおどり(其二)	各金六拾錢
唱歌遊技(其二)	各金六拾錢
幼兒のおどり(其三)	各金六拾錢
唱歌遊技(其三)	各金六拾錢
幼兒のおどり(其四)	各金六拾錢
唱歌遊技(其四)	各金六拾錢
幼兒のおどり(其五)	各金六拾錢
唱歌遊技(其五)	各金六拾錢
幼兒のおどり(其六)	各金六拾錢
唱歌遊技(其六)	各金六拾錢
幼兒のおどり(其七)	各金六拾錢
唱歌遊技(其七)	各金六拾錢
幼兒のおどり(其八)	各金六拾錢
唱歌遊技(其八)	各金六拾錢
幼兒のおどり(其九)	各金六拾錢
唱歌遊技(其九)	各金六拾錢
幼兒のおどり(其十)	各金六拾錢
唱歌遊技(其十)	各金六拾錢

兒童問題研究

嚴正なる科學的態度を以て兒童と、その生活を総合的に研研する我が兒童問題研究會の機關誌。教師、保姆、兩親諸君になくはならない。

定期刊行について
研究會の再出發
編輯部

乳幼児愛護週間の話
その歴史と各國の狀況、我國の施設・對策
小川實也

ソヴェトに於ける兒童保護
新制度下の兒童保護の實際とその意義
大竹博吉

新入兒童を巡る
卒業兒童を巡る
（保姆・教師・父兄・兒童の感想）

生きた新聞（兒童時事問題）
河崎なつ

子供によせて（隨筆）
思想家 諸氏

兒童學入門「九」講座
山脇敬次

託兒所に於ける給食の新しい試み
保育研究部

五、六月の兒童病理衛生
齋藤一郎

工場に働く母と子
松永せい子

野良に働く母と子
佐藤みつ

にんじんと家なき兒と人生案内
秋田雨雀

「乳幼児の保育」「書物」その他
兒童讀物研究部

電話運河物語
レオ・カスシル

六月號

定價 三十錢
送料 二錢

この夏の保育講習會

期日 場所 講師

自七月二十二日 至同 二十七日 六日間 午後一時より四時まで
東京女子高等師範學校

- 一 幼稚園に適切なる唱歌遊戯及び團體遊戯指導(二十二日より二十五日まで四日間)
東京女子高等師範學校助教授 戸倉ハル君
- 一 保育の實際に關する質疑應答(二十六日より二十七日まで二日間)
東京女子高等師範學校教授 倉橋惣三君

金貳圓五拾錢

會費 宿泊 申込

本校寄宿舎(常構内)で宿泊の御便宜を計ります。(文部省主催講習會員及び日本幼稚園協會講習會員共)
費用 一泊金壹圓貳拾錢(二食つき)

聽講、宿泊いづれも六月二十日より七月十五日まで、本會講習掛宛にお申込み下さい、御住所一及び奉職
所名)必ず御明記置き願ひます。(會費は申込と同時に日本幼稚園協會振替口座東京一七二六六番にお拂込
下さい、倉泊料は御入舎の上でお支拂ひ下さい)

文部省主催幼稚園講習が七月二十二日より同二十七日まで東京女子高等師範學校に於て開催せら
るゝ豫定に基き、その午後毎日右の通り本會主催の講習會を開催いたします。

東京女子高等師範學校附屬幼稚園内

昭和九年六月

日本幼稚園協會

小石川區大塚町三五

第六回 夏季保育講習會

毎年開きます夏の講習が、いつも新しき點適切有益である事で皆様が喜んで下さいますので一層力を得て本年茲に一流の權威ある先生に御願ひ致しまして左の通り第六回目の講習を開きます

本年も五割引乗車の便利を取計らひ通用期間を昨年より早く長くいたして貰ひます

一、期日 七月廿八日より八月一日迄五日間

二、時間 午前八時より十二時迄
午後一時より五時迄

三、科目と講師

1. 幼稚園保育の本質(六時間)

東京女子高等師範學校教授
東京昭和保姆養成所講師兼顧問

倉橋惣三先生

幼稚園に於ける保育は其根本の本質に於て如何なるものであるか。如何なるものであるべきか。如何にすべきか。殊に保姆の持すべき心の用意、態度は如何にあるべきか等の重要問題につき講せらる

2. 幼児期に於ける日本精神の涵養(四時間)

東京文理科大學教授 文學博士 檜崎淺太郎先生

檜崎先生は曩に日本教育的心理學と教育革新の本道を此の二大著書によつて最近我國教育界に大なる響きを與へられて居る折柄茲に先生の蘊蓄を窺ひ教育の基礎である幼兒に日本精神の基礎を與ふるに如何にすべきかを闡明することは目下の急務であると思ふ

3. 性格の診斷と其取扱ひ方(六時間)

東京帝國大學助教授 青木誠四郎先生

昨年の講習では時間の關係で十分に參りませんでした。何と云つても此の方面の唯一の權威者です今年回は一々具體的に例を擧げて後理論的説明を與へ其應用まで進めていたいただきます

4. 幼兒の繪の見方。導き方。及び繪の見せ方(四時間)

清水良雄先生

畫家として大家であり童畫家として實に造詣深く幼兒の書ける繪を見る保姆の眼識。導き方。繪本の見せ方については先生の右に出る方は殆どないと云ふも過言ではありますまいか、こゝに皆様と此の講演によつて幼兒生活を一層豊かにする途を求めたいと思ひます

5. 手技製作(六時間)

東京女子高等師範學校教諭 及川ふみ先生

幼児の製作は先生を以て最も選を得たるものと確信します、
今回文部省で主権の保育講習に教授せらるゝものごと全く別種のものをお願いいたす事で皆様には最も
良いお土産を與へらるゝ事と信じます

6. 律動遊戯及び表情遊戯の理論と實際(四時間)

東京昭和保姆養成所長 土川五郎先生
瑞穂幼稚園長

専ら幼児に適した新作二十餘種に低中高學年のものを加へて教授練習す

理論之部は1. 2. 3. 4. の四科目 實際之部 5. 6. の二科目

四、區分

各三百名

五、定員

瑞穂幼稚園 東京市品川區大井原町五、二〇八

省線大井町驛下車城南バスにて原又は水神前下車一二分

六、會場

理論之部 參圓 實際之部 參圓 兼修五圓

七、會費

五割引復券

會費を添へてお申込の方に御送りいたします。七月二十日迄にお申込下さいませんと間に合ひません

購入使用期間は七月十日より八月十日迄の豫定
市及近郊から省線でお通ひの方は毎日割引券を差上げます

八、割引乗車券

七月廿五日迄 東京市品川區大井原町五、二〇八 土川五郎宛

爲替又は振替東京六九二一四番により申込むこと振替の方は裏面に講習と記入のこと

九、申込

本校寄宿舎を充用す一泊二食金壹圓貳拾錢のこと前以て申込まれたし

一〇、宿泊

昭和九年六月 主 催 東京昭和保姆養成所

責任者 土川五郎

東京市品川區大井原町五二〇八
電話 大森二、二一〇番
振替東京六九二一四番

第六回 保育夏期講習會

主催 佛教保育協會
 後援 佛教各宗々務所

昭和九年七月二十七日より三十一日まで(但八月一日見學)

期 間 每日午前八時より午後三時まで

會 場 東京市小石川區表町傳通會館(市内電車傳通院前下車)

會 費 金貳圓五拾錢也

申 込 所 東京市淺草區淺草公園淺草寺幼稚園內

佛教保育協會夏期講習會事務所宛

申込期日 七月二十日まで(但定員超過の場合には期間中と雖もお断り)

定 員 貳百名

宿 泊 御希望の方には一泊二食付壹圓にてお世話いたします(申込書に其旨附記のこと)

鐵道賃割引 本講習に参加せらるゝ方に限り全國鐵道運賃三割引の特典があります

見 學

- 第一班 午前 中 後
 - 第二班 午後
- 築地本願寺經營幼稚園—新聞社—淺草寺經營幼稚園其他
 上野寛永寺經營幼稚園—科學博物館—

講師及科目

幼稚園保育の眞精神

幼稚園保育の根本義に就て従事者の是非心得て頂かればならない點を約四時間に亙り懇切に御教示されることになつてお

東京女子高等師範學校教授

堀

七

藏氏(四時間)

佛教保育の理論及實際

東京女子高等師範學校教授
 本會副會長

關

寬

之氏(三時間)

幼児の唱歌指導法

前東京音楽學校教官 梁田

貞氏（七時間）

佛敎保育とは何ぞや……：多年先生が御研究なさいましたことにつき簡易平明に講述されます
幼児に對する唱歌の實際指導に當つて種々困難なる點、注意せねばならぬ點を七時間に互つて指導されます、尙讀佛歌につきましても御指導されることになつております。

幼児の遊戯指導

東京女子高等師範學校助教 戸倉

ハル氏（八時間）

幼児の遊戯に就ては最も熱心に御研究されつゝある先生が最近に振付せられたるものを題材として最も幼児に適した遊戯を親切に御教示されます。

手技製作の理論及實際

前帝都教育會保姆練習所教授 卜部

たみ氏（五時間）

幼児に對する談話法

久留島 武彦氏（三時間）

如何にすれば幼児にお話を聞かせ、見せ、することが出来るかを先生多年の御經驗を主として講述されます。

科外講義

婦人ご教育

前文部政務次官 本會會長

安藤 正純氏

婦人ご修養

中野高等女學校校長 本會副會長

富田 敦純氏

婦人ご宗教

淺草寺貫首

大森 亮順氏

御注意

申込書御入用の方は左記本會夏期講習會事務所宛御申込下さい

東京市淺草區淺草公園園淺草寺幼稚園内

佛敎保育協會夏期講習會事務所

振替口座東京 七八六六七番

電話淺草(三三三三番) 七二〇五番 内線三四番

第五回全國保姆夏季大講習會

一期間

八月六日より九日迄。自午前八時半、至午後四時半

會場

大阪府立、大手前高等女學校

(大阪市東區大手前町、大阪府廳北)

科目と講師

◎午前の部

一 幼兒の性能の鑑別法

東京帝國大學教授 文學博士 淡路圓治郎氏
幼兒保育上、現下の緊要問題なる、この新研究は、必ずや、幼兒保育に關係ある各位の見のがし能はざる重要事ならん(五時間)

二 幼稚園に於ける幼兒の性格理解と性格指導の問題

浪速高等學校教授 文學士 正木 正氏
正木教授は、多くの幼稚園に就いて、各種の實際的研究をなし、其の新研究を發表さる、幼兒の實際教育に當らるゝ保姆各位のオアシスならん(四時間)

三 新らしい保育の問題について

平安女學院専門學校教授
ランバンス女學院教授 マスター、オブアーツ 高森 富士女史
附屬、幼稚園主任

四 誤れる童話の使命と取扱法

紙芝居の理論と實際
尾關岩 二氏
尾關學士の新研究は誤れる童話の使命を論じ、正しい其取扱法を示し、且つ目下の重要問題たる紙芝居の理論と實際とを説破され、幼兒の藝術教育に正しい指針を與へるものである(二時間)

五 風變の新らしい手技の實習

三つ田手技研究所 三つ田花子女史
幼兒手技の新研究なる三つ田女史が新しく考案せる立體的の手技、廢物利用の手技(羅紗、空筒、鋸屑等)自然物利用の手技等の數多く、實際に役立つ保育資料が提供さる(四時間)

◎午後 9 部

六

幼稚園の遊技會、運動會に適切なる體育ダンス及
唱歌遊技、新作發表廿五種

久保氏は體育ダンス、舞踊を研究すること十數年。著書六十有種を算す。大日本新遊技研究所長
し、我國幼兒ダンスの建設の第一人者なり。(八時間) かつて歐米各國に一ケ年、外遊せ

久保富次郎氏

七

幼稚園適切なる教育舞踊と幼兒音頭踊(新作發表二十有種)

戸谷舞踊研究所長
大日本新遊技研究所講師

戸谷俊子嬢

東京、エリアナ、パプロバ女史に師事し且つ若柳流新舞踊の名手也。其作は和洋を折衷し動的に、自然にリズムに按舞し、教育的にして新味と生氣を帶ぶるやさしき舞踊である。天才的の女流創作家なること
は毎年全国各地の講習に於いて等しく驚嘆さるることである。(八時間)

講習料

午前の部 金參圓。午後 9 部 金參圓。兼修金五圓

宿泊

二食附金壹圓參拾錢にて指定旅館。大阪驛前。浮田旅館にて親切に世話す。

申込

七月末日迄に、會費を添へ。午前、午後を明記し、主催宛に書留若くは振替口座大阪
七一一四六番に申込むこと。手技の材料などの準備の都合上、なるべくお早く御申込
頂くと幸です

資格

制限無し

主催

大日本新遊技研究會

大阪市西淀川區野里町一一三三

研究所 振替口座大阪七一一四六番
北區南森町交叉點北、森町ビル二階

久保氏著書
本會取次

體育ダンスと唱歌遊技	金壹圓半
體育的ダンス(其一)	各金六拾錢
唱歌遊技(其一)	各金六拾錢
體育的ダンス(其十)	各金六拾錢
唱歌遊技(其十)	各金六拾錢
教育的舞踊(其一)	各金六拾錢
教育的舞踊(其四)	各金六拾錢
幼兒のおどり(其一)	各金六拾錢
幼兒のおどり(其二)	各金六拾錢
唱歌遊技と舞踊	金壹圓

兒童問題研究

嚴正なる科學的態度を以て兒童と、その生活を総合的に研研する我が兒童問題研究會の機關誌。教師、保姆、兩親諸君になくはならない。

定期刊行について
研究會の再出發
編輯部

乳幼児愛護週間の話
その歴史と各國の狀況、我國の施設・對策
小川實也

ソヴェトに於ける兒童保護
新制度下の兒童保護の實際とその意義
大竹博吉

新入兒童を巡る
卒業兒童を巡る
（保姆・教師・父兄・兒童の感想）

生きた新聞（兒童時事問題）
河崎なつ

子供によせて（隨筆）
思想家 諸氏

兒童學入門「九」講座
山脇敬次

託兒所に於ける給食の新しい試み
保育研究部

五、六月の兒童病理衛生
齋藤一郎

工場に働く母と子
松永せい子

野良に働く母と子
佐藤みつ

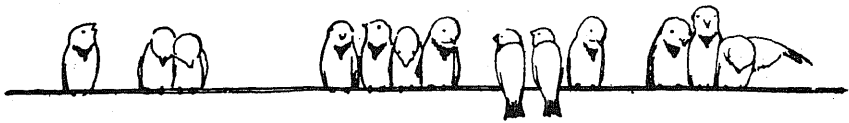
にんじんと家なき兒と人生案内
秋田雨雀

「乳幼児の保育」「書物」その他
兒童讀物研究部

童話運河物語
レオ・カスシル

六月號

定價 三十錢
送料 二錢



第 三 十 四 卷 幼 兒 教 育 第 六 號

— (次 目) —

口 繪	倉橋惣三 (一)
卷 頭 (うげ)	倉橋惣三 (一)
如何にして宗教に導いたらよいでせうか	齋藤善太郎 (二)
日本幼稚園史序	倉橋惣三 (七)
幼童教育と童謡 (五)	葛原 幽 (二)
フレーベルの遊戯論	白根孝之 (七)
誰にでも出来る實驗 (二)	堀 七 藏 (六)
幼稚園參觀の旅	及川ふみ (三)
童畑の豆	槍 山 京 (六)
幼児の服装について (六)	成 田 順 (元)
こどもの詩感	新庄よしこ (四)
動物 河馬の手紙	濱 田 格 (吾)
競争遊戯	村上露子 (五)
童 王女の猫の話	中野好夫 (六)

コドモノテンチ

出た出た朗からな七月号

定価五拾圓 郵税半 半年八圓 一年十五圓

編輯

顧問

東京女子高等師範幼稚園主事 東京女子高等師範幼稚園主事
東京女子高等師範幼稚園主事 東京女子高等師範幼稚園主事

倉板

橋倉

惣賛

三治

「コドモノテンチ」は最もよき子供繪雜誌です

幼稚園の先生方へ

◎子供の最も喜ぶものを巧みに教育的に取扱ひ先生や父兄方の資材となるやう編輯してある點が特徴であります。

◎子供は「コドモノテンチ」一冊あれば、それで満足して一心に繰返し繰返し見て居ります。

◎本誌は幼稚園小學校の初年生に、最も適した模範的雜誌であるこゝを誇りさせていただきます。

◎先生方に限つて御申込みになれば、見本を贈呈いたします。御覽の上本誌の指導者となり愛讀者さなられんこゝを願ひいたします。

家庭のお母様方へ

愛兒の教育は先づ「コドモノテンチ」から

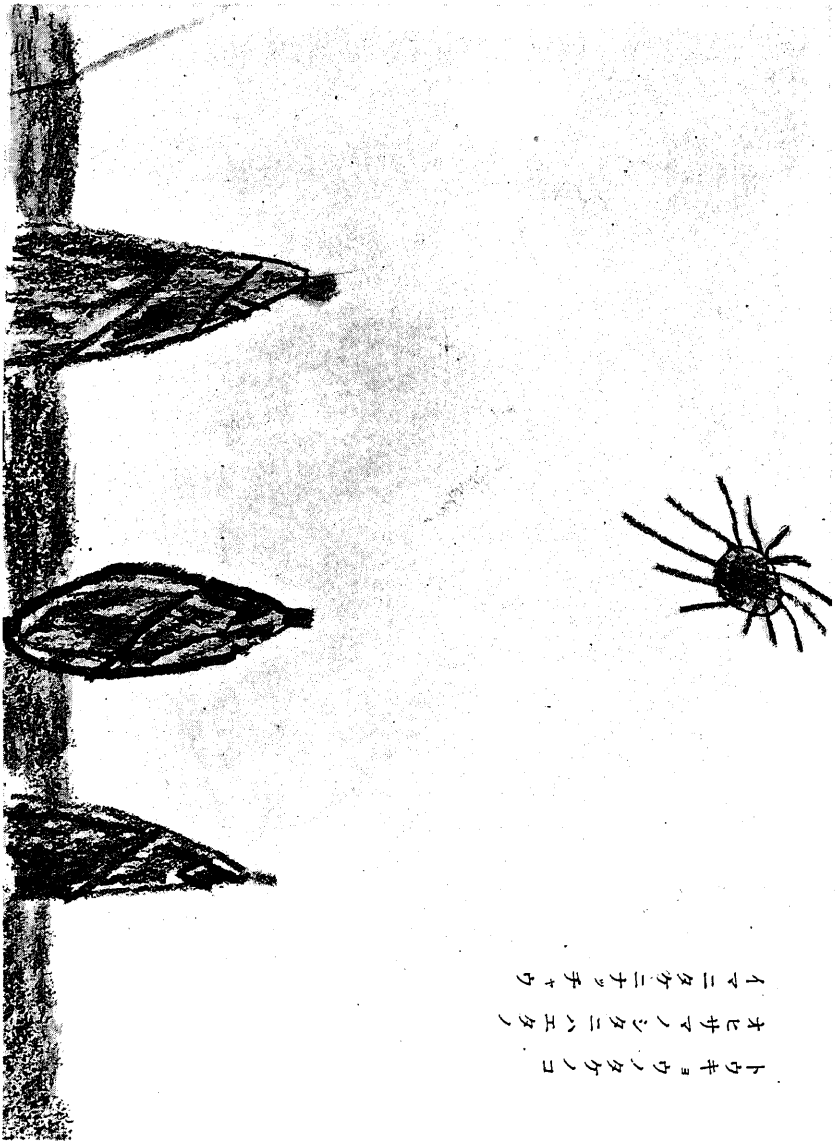
本誌の目次の大要

- ◎ ミミツクの散歩……………清水良雄
- ◎ 涼しいお家(子供の工夫遊び)……………本田庄太郎
- ◎ キャンプ生活(家だんらん)……………本田庄太郎
- ◎ 扇風器(童話 曲譜 振付)……………奥田準一
- ◎ 朝顔……………福興英夫
- ◎ 自轉車……………佐藤今朝治
- ◎ トンボトオニギヤウ(童話)……………中野雅子
- ◎ マミムメモ……………武井武雄
- ◎ オホキナスキクラ(漫畫)……………前川千帆
- ◎ ハナビ……………西川藤太郎
- ◎ おせんたく……………一木 彦
- ◎ お船に乗る象……………岩崎大子
- ◎ 日本の夏と北極……………深澤省三
- ◎ 私達の動物……………竹久工之
- ◎ 燈籠流し……………佐藤今朝治
- ◎ ドライアイス(科學)……………伊藤 孝
- ◎ 細いものと繪手本……………板倉賛治
- ◎ カナリヤ(童話)……………新井はじめ
- ◎ オランダの子供……………東山新吉
- ◎ 七夕まつり……………吉澤廉三郎
- ◎ 夕涼み……………新谷萬吉
- ◎ 附録水鳥……………西川藤太郎
- ◎ 曲譜と振付……………中山晋平
- ◎ 島田 豊

東京曙本十郷一 子供の天地社 電話代東四九〇五三六

自畫自詠六歲女兒

トウキヨウノタケノコ
オヒサマノシタニハエタノ
イニタケニナツチャウ



おなじく六歳男児

タヒハアカイケレド
ヤクトクロイ
タヒハオイシイケレド
ホネガアル
ヌコイホネガアル



幼 兒 の 教 育

昭 和 九 年 六 月

こ
げ

わたし達の目にまげはないか。わたし達の言葉にまげはないか。わたし達の氣分にまげはないか。

もこより自分で心づかぬ時のことである。まさかに、心づいてそんなことのあるやうはないが、ちらちら光る目、ふき出る言葉、思はず動く氣分に、自分でも心づかない峻烈はないか。

もこより瞬間のこことである。直ぐ氣がついて急いで取り直さずにはならないが、しかし、まげはいつでも、ちよつと刺すものである。その一と突きが、もう相手の皮膚を破つてゐるものである。

幼児の心の膚は、その軟い皮膚よりも軟い。わたし達にはほんの小さな一つのまげがあつても、直ぐいため傷けずに置くまい——或る朝、幼稚園の垣に薔薇を植えてゐる植木屋と立話をしながら、その薔薇のまげよりも、自分のまげが氣にかゝりだしたわたしでもある。

如何にして宗教に導いたらよ

いであらうか

—— シュライエルマツヘル、フレーベルの教を想ひだしながら ——

京都平安女學院専攻部 齋 藤 善 太 郎

一

先日も一人の生徒が来て、こんき研究会で宗教々育のこゝを發表するこゝになりましたがさうして準備したらいゝんでせうか、この相談を受けました。受けた私こいふのは、基督教學校の二教師で、其の生徒こいふのは、その保育科の生徒で、先生こして日曜學校に關係したこゝもある人でした。たいへん敬虔な人で、極く素直に育つてゐる、やがて保母になるのにまこゝにふさはしい人であります。そのこゝ私と言ひました、一般に宗教々育の何であるか、そして其れは兒童生活に如何に關係せしめられねばならぬか、こいふ立場から問題にしようとするのであるか、それこゝも、さういふこゝは別に、たゞ日曜學校の組織を如何にすべきか、その教授指導の細目及方法を如何にすべきか、こいふこゝを問題にするのですか、いつたいごちらです、こ云つたのでした。其の生徒はやゝ怪訝な面持で私を觀てゐました。それは無理からぬこゝであります。なぜこいへば、其れが正當であるか否かは別として、こにかく宗教々育こいへば多くの場合、若い保母達こか日曜學校の先生方は、いふまでもなく後の方の立場からのみ問題にさるべきだこゝ、ほこさん極めてかゝつてゐるかからあります。しかし、これは餘りに今更めく、今こゝに言ふには餘りに自明に、言はれすぎてゐるほどのこゝであります。

すが、しかし私共して、今勉強もしくは研究の途中にある人共して、前の立場からも問題にしてもらひたく、否、ぜひ然うしてもらはねばならんと思つたから、敢て、餘りにも今更めきながら、まへのごきく問を發したのです。私共しては、ここに對兒童の宗教々育の實際家の方々に、もつこく問題を根本的に攻究もし検討もし、乃至、困惑に陥り疑惑に悩んでほしいのです。でないで、殊に淺薄を怖るゝ宗教々育が、うはずべりしてならないからです。光はたゞ、ゲーテも言つたやうに、悩みのために夜々を眠られもせて過したごきのある人や、涙のうちにパンを食べたごきのある人からのみ、あらはれてくるからであります。私達からすれば、まさにさういふ方々であられたからこそ、十字架を負はれた主イエス、業の催しにさいなまれてゐた親鸞上人なごから、ほんごの光をいたゞくごきが出来るからであります。

いつかも、かの生徒共同じ保育科の人達、宗教々育方法論、その指導技術なごの點では多くの知識ご訓練をもつ生徒等に、その顔を冒して、「一體宗教々育は必要であるか」、「必要であるごして、しかし可能であるか」、「可能であるごして一體何を傳へるごであるか」、「傳へるごなきではないごするならば、何をすることであるか」、「なぜ宗教々育なき問題にせねばならぬか」、なごいふごきを矢つぎばやに問ひかけて、問題にしたらつたごきがありました。今でもやはり保育科の一教師共して同じ要求を感じさせられてゐます。をるところが基督敎學校であり、教室で生徒共なつてゐる數人は、實習では現に毎日幼稚園の先生共して保育に實際從事してをり、日曜日になれば日曜學校の先生共して基督敎教育にたづさはつてゐる若い人達を周圍にもつてゐるだけ、既に解決せられたはずの事でありながら、しかも、全然未だ問題共もされずに、徒らに其の側を通りすぎて、はなはだしい反宗敎的、反敎育的な危險共冒瀆共を犯してゐる、いたましい事實に、少からず接するからであります。しかし、これは、あまりにも今更めいた、くりかへしになりますし、かくいふごき其のごきが、よそめには、いたましくもあるごきですから、其れはそれ共して、さて、古くして新なる説を、こ

こに其の人の死後百年の記念されてる今年、復た想起したのであります。其の人さいふのは、かの宗教理解したがつて宗教々育に關しても歴史的に高く聳ゆるシュライエルマッヘルであります。その人に歸れ、「シュライエルマッヘルに歸れ」は、ちようご教育に關してルッソーに、哲學に關してカントに、其れく古典への歸還が叫ばれると同じく、其の道の先達によつて云はれてゐるものであります。私として、宗教々育に關し、さらにフレーベルの『人の教育』の、あの生々たる叫びに聽き、あの暖かき魂に温められたいのですが、そのまへにまつ、同じく故きを温めんがために、シュライエルマッヘルの『宗教について』にかへりゆきながら、かの眞面目なる、誠に敬虔なる、若き魂の教へに學びたいと思ひます。

二

其の本の第三講は「完教への教化について」の章で、廣い意味での宗教々育に關する所でありませんが、そこでシュライエルマッヘルは、まづ、もし宗教的な教育を施さうとするならば、しか念願する人その人によつて宗教そのものが顯はに表現せられ且つ互ひに分ちあはるゝよりほかに道はない、こいふ意味のこを云つてをります。その意味は、此の章のまへにある第二講の宗教本質論からすれば宗教とは、當然、神學的知識とか神話的物語とかを事々しく言葉において云ひたたりするこではないのであります。さういふやうな知識とか物語とかは、彼によれば、宗教そのものではないのであります。したがつて、其れらは何れの宗教にも附きまこふものではあるが、しかし要するに附きまこふものにすぎないのであるから、其れを宗教そのものであるかに教へこまうとするやうなこは、彼からすれば、およそ反宗教的冒瀆といふこになるのであります。彼の云ふ、顯はに宗教が表現せられ且つ互ひに分ちあはるゝ、こいふ意味は、むしろ、この場合宗教的な教育を施さうと念願する人その人が、その生活そのものにおいて、まこに、ひたに、その宗教そのものに生きて、そこからの自然にして必然なる、いはゞロゴスの顯れとして、神における内なる生活が、言行しての外なる、生活にま

で顯はになり出で、其れが香ぐはしくも他の人に移り傳はるこいふ、そのこごによりほかに道は無い、こいふこごになるのであります。ですから彼はまた、このやうにして若し一人の人が生活そのものにおいて宗教を言ひあらはすならば、すなはち、いはゞ自らがまづまこごに宗教的なる音において眞底より鳴りいづるならば、同じく本質において本來宗教的なるものなる他の人も、其の響に共に鳴りいでしめられて、その内に潛み存せる宗教的素質は、麗はしく華咲きいづるであらう、そして然ういふ共鳴關係のこごころにこそ、宗教における師と弟子との活ける關連が眞に成立つであらう、こいふ意味のこごを云つてをります。彼にしたがへば宗教は、フレールといふこごころにも似て、人の心の最も奥底なるものが、最も有りのまゝに、最も素直に、全宇宙にむかつて開きいで、其の宇宙のまへに、いはゞ今にして親心の洪大さめざめたる子の如く、度しく頭垂れつゝ、畏れ、歡びのうちに父子一體的なる感を感じながら、全宇宙の生の共同を感じつゝあるこご、であつたのであるから、人が「人」なるこご、人の「人」たる所以を發揮して「人そのもの」、彼の句はしい言葉では die Menschheit となり、さらに、より高きもの、いふ高きものとしての「宇宙」そのもの、Unersum の、敬虔なる、其れにかきいだかれつゝある、こいふ感の關係においてあるこご、であつたのでありますから、したがつて、人が「人」になりさへすれば、人はすべて宗教的なるもの、こいふ考を基にして、一人の人が眞に宗教的に鳴りいでゝくるならば、他の人をも然か鳴りいでしむるこごができる、しかもたゞ其れのみが唯一の道である、こいふのであります。

それであるから彼はさらに云ふのであります、宗教が人の内にあらはれるのは他人なきの如何さもすべからざるこごからである、其れは「宇宙」のもよほしによるこご、言ひかへれば神よりのこごであつて、人なきの僭越にもこごやかくこ關與し得るこごからではない、宗教は、人の生活の最内部、「心情」Gemüt もしくは Seel において、いはゞ親心の暖かきかきいだきに、胸もあらはに己をうちまかせ、神聖なる領域のこごを秘められたる生の交はりこして、謂ふこごころの教

授さか傳授さかいかいふこゝなまぎの踏み入るべくもない所である。されば、宗教への教育を稱して、技巧をこらして教へこまんなさいふやうな態度は拙劣であり愚劣であるにすぎない、と云ふのであります。最も宗教を愛し、敬し、其れの真相を人々のまへにあらはにしようとする熱烈に叫びながら、自ら教養ありき自憚して思ひあがつてる人々のまへに切々語り訴へてゐる人の活ける言葉として、まさに傾聴すべき言葉であると思ひます。

附記

一、固苦しくなるのを避けて、シュライエルマッヘルの本文をそのままには引用しませんが、できますなら彼の本文について、彼の活ける言葉について聽いていただきたく思ひます。さいはひ、彼の「宗教について」は、『シュライエルマッヘルの宗教論』として、石原謙博士によつて譯出され、内田老鶴圃から出版されてをります。また、春秋社の「大思想全集」の第二十卷めの中にも河面仙四郎教授の譯が『シュライエルマッヘル、宗教學』としてはいつてをります。原文によらうとして下さるならば、Schleiermacher. Reden über die Religion. 其の第三講（一三四頁以下）および第二講（三八頁以下）。

二、「ゲーテも言つたやうに」こいふ所は、よく知られてゐるやうに、オスカー・ワイルドが其の『深き底より』（平田禿木氏譯では『新生』となつてゐます）の中で、母が書き記しておいた言葉として、彼を深き内省に導いた有名な箇所であり、また、其の源をたざれば、ゲーテの『キルヘルム・マイスター』（林久男氏譯あり）の中に出る堅琴ひきの一老人が内なる魂をひそかに歌つてゐる、その歌から出てゐるのであります。

三、「いはゞロゴスの顯はれとして」こいふ所には、プラトン哲學風の、または有名なる『ヨハキ傳』（新約聖書第四稿高書）風の背景を聯想していただきたいのです。（五月二十二日）

日本幼稚園史序

倉 橋 惣 三

今日我が國の幼稚園は千六百を超え、その分布も亦全國に亙つてゐる。これに朝鮮、臺灣、滿洲方面に於けるもの、及び保育所、託兒所等の名稱を以て行はれてゐるものを加算すれば、更に非常の多數に上る。學齡前幼兒の保育施設に對する留意は、動かすことの出来ない一大社會事象となつてゐるのである。殊に近年に於て、その新設率は一層の高上を示し、年々共に愈々益々著しき發展の勢をあらはしつゝある。而して、その因つて來る所以が、幼兒保育の重要性に對する理解の進歩と、現代社會の現實的事情から生ずる要求によるはいふまでもないが、この發展の氣運が大正十五年の幼稚園令公布によつて著しく促進せられたことと共に、更に遡つて、その遠き根元が明治九年の國立幼稚園創設にあつたことを忘れることは出来ない。すなはち、我が國の幼稚園は、今日の普及に於て大いなる教育施設であると共に、その發達に於て長き歴史を我が國に有する教育施設である。

明治九年は、我が國に初めて學制が布かれた年から僅に數年を距てゝゐるに過ぎない。しかも、その頃は、學制が布かれたさいふだけで、全國の學齡兒童中小學校に就學せるものゝ實數は、未だ極めて少數に過ぎなかつた時代である。その時代に於て、疾くも學齡前教育の組織的施設が企てられたものである。殊に、明治九年に云へば、幼稚園さいふ名稱が初めてフレールによつて命名せられた年から僅に三十六年の後であり、フレールが世を去つた年から二十四年を経てゐる

るに過ぎない。フレールベルの幼稚園が獨逸以外に傳へられたのはその歿後のことである。フレールベル自ら往いてその幼稚園を開かうと考へたことのある亞米利加でさへも、歿後八年にして初めて有志家によつて私立幼稚園が創設せられたのである。その後十六年にして、我が國に官立幼稚園が創設せられたことは、當時の世界關係に於て、甚だ進歩的な著眼であつたまゝはなければならぬ。尙くわしく考へて見れば、明治九年は亞米利加の幼稚園を公立のものとした第一の先驅者ドクトル・ハリスが、セントルイスにその亞米利加最初の公立幼稚園を開設した三年の後である。その以前にも、幼稚園まゝはざる幼稚園は既に我が國にもあつたのであるから、我が國の幼稚園は、世界的にいづつても相當早いものであつたといへる。當時の先覺者諸氏の進歩的識見に、深き敬意を禁じ得ないのである。

さて、その先覺者諸氏の貴い意圖と創業の苦心とに出發させて、我が國の幼稚園史を編纂したいといふことは可なり古くからの私の念願であつた。明治の終り大正の初め頃からであつたこと記憶するが、私は、當時お茶の水にあつた東京女子高等師範學校附屬幼稚園の倉庫に立籠つてはその古い資料を漁つたものである。實にその倉庫には豊富な資料が堆積されてゐた。私は、うす暗い光線と微臭い空氣との中で、若い胸を躍らせながら、初めて、和綴りの「幼稚園記」や「二十遊嬉」を見た。黒ずんだ美濃紙の手記書類や、色褪せた昔の手技や、圖畫なごをいぢくりまわしたりした喜びを、今もはつきり忘れない。たゞ餘りに手近かな便宜に氣を暢び暢びさせて、調べたものを急いで纏めるといふことを怠つてゐた。後、外遊のために暫くその方の仕事を中断し、歸つてからも引つゞき餘事に追はれてゐたが、そのうちに、あの大震災で、その倉庫も資料も一切灰燼に歸して仕舞つたのである。取りかへしのつかない損失を惜しみ悲しんだのは勿論、なまけものが受ける天罰に對して、しみじみ思ひ知らされたのであつた。

爾來、私の身邊は公私繁雜を加へて、落ちついて資料の再聚集をする暇を失ひ、自然この計畫も氣まぐれな漫歩的進み方しかないでゐた。然るに、私をして舊い熱意を再燃せしめる機會が起つた。それは、豫てお話を聴きたいと思つてゐた我が國最初の保姆豊田英雄女史を水戸の寓居にお訪ねしたこゝである。その時、種々の未知の資料について得るこゝろが多かつた以外に、我が國の幼稚園史が、今ならば生きた記憶を資料とするこゝろが出来るといふこゝろに、今更のように強く氣がついたのである。殊に一ミ度びそこに氣がついて見るこゝ、その真に貴重な生きた記憶材料が、次から次に與へられ得るこゝろに氣がついた。倉庫の焼失によつて力を抜かれてゐた私の舊い志は、もう一度私を驅りたてゝ來た。しかも、あの倉庫の中で、ゐながらにして惠まれてゐた資料は、その一冊、その一卷を得るにも今は容易のこゝろでない。殊に忙しい私ひまりの手では、それが一層の難事たるを免れない。私は心ばかり焦らせて手を措いてゐる態であつたが、この時、私のために熱心なる協力者となつて呉れたのが新庄よしこ君である。東京女子高等師範學校文科の出身で、長く附屬幼稚園保姆として斯の教育に従事してゐる同君が、此の仕事の協力者として如何によき適任者であるかはいふまでもない。従つて、協力者といふも實はごつちが一層骨の折れる役廻りを受持つたかは、私のために言はぬが花であらう。實に、新庄よしこ君の大きい努力を俟つてこそ、此の書が出来上り得たといつてよい。

しかし、日本幼稚園史といふ大きい名稱に對して、此の書が頗る不完全のものであるこゝろは、著者等の今にして深く慚愧にたえないこゝろである。殊に記述の進め方が附屬幼稚園を中心にしてゐるようになつてゐるこゝろは、此の種の著述として出来るだけ避けたいこゝろであつたが、事實がさうであつた爲に已むを得なかつた。決して著者等の立場に偏したものでないこゝろを諒せられたい。たゞ、私達の不敏から資料の聚集が難かしく、廣く各地方のこゝろを詳かにし得なかつたこゝろは、今以て遺憾させる點が少なくない。又幾多の不注意なる誤謬も脱落も無いこゝろ限らない。充分なる補足と訂正とに就

て、識者の好意ある御助力を期待してゐる。尙ほ又、著者等の見解に基いて、記述を初期にくわしくして置いた。そのために、幼稚園史を稱して實は幼稚園發祥史の觀があるが、發達の實際に即して、おのづから斯くならざるを得なかつたことを認められたい。殊に第四篇は、まことに簡約を極め、他の諸篇との權衡を失つてゐるが、これは、今日の幼稚園を論ずる機會に於て多く語りたいたのであつて、本書としてはほんの結びをつけて置いたに止る。これを以て幼稚園史としての本書が輕重せられることのないよう、切に希つて置きたい。

最後に、本書の成るに就て、各方面から貴重の資料を供與して下さつた御好意を、種々引用の許可を與へて下さつた寛容に對し、著者等の心からなる感謝を申上げる。又、本書の刊行に當つて示された東洋圖書株式合資會社社長永田與三郎君の、斯界に貢獻するところあらんことを誠意を特に銘記せざるを得ない。

昭和九年五月

幼童教育と童謡 (5)

葛原 幽

F、歌はせない童謡の活用

○
一つ楽器によらず、また、楽譜によらずして、思ひ思ひの聲で、大きな聲で、おのづからなるリズムのまゝに、時に一人一人、時に、多勢一緒に聲を合せて、反誦させる事に、童謡が、はたらきます。

殊に、既述の、何の一篇でも、實は、意外に誤られ易い點もありますので、その材料として、幼児の心を練る上に、役立つと思ふのですが、茲には、一つの例として、舊作ですが、「ニコく〜ピンく〜の歌」を提供しました。これは、ほんこの幼児には、むづかしいのですが、

第一番は、「お日様」であり

第二番は、「風」です、

ニコく〜ピンく〜の歌

弘田龍太郎氏曲

お日が照る照る 町に照る

野に照る海に 山に照る

草木に 小鳥に ぎら〜〜

大人に 子供に お日が照る

お日が照らうま 照るまいま

明るひ顔で 歌つてる

それく〜 ニコく〜 ピンく〜よ

ニコく〜 ピンく〜 ニコピンピン

風が吹く吹く 町に吹く

野に吹く海に 山に吹く

草木に 小鳥に そよ〜〜

大人に子供に 風が吹く

風が吹かうま 吹くまいこ

手足を上げて 踊つてる

それく ニコく ビンくよ

ニコく ビンく

ニコピンピン

ミ聲を、張り上げる事が出来るので誠に天下泰平です。

これは、幼児でなくても、大きい子供、また、實は、大人にきつても、よい練習になりますので、

お日が 照る照る □に照る

□に照る □に □に照る

□□に □□に ○○くき

□□に □□に お日が照る

お日が照らうき 照るまいき

□るに□で □つてる

ミやうに、伏せ字にして、埋めてみる事が、よい練習になるのです。

○

次の『かけつくら』は、テニヲハの用法が十五種以上もあつて、その用ひ方によつて、三の子供のメンタルテストも出来るので、先年の保育協會席上でも提示した童謡ですが、

風

葉つば

子供

この三つの組合を、四つにして、四種の、かけつくらをさせるのです。

第一節は、風ミ葉つば、

第二節、葉つばミ 葉つば、

第三節、葉つばミ 子供、

第四節、子供ミ 子供、

なのですが、これを、出鱈目に、唯しやべつてゐる、いきなり

風ミ 子供

が組合はされたりするのです。

これも、次々に、反誦させて行く中に、きつミ一二の兒童が、それをして、皆を笑はせます、いえ、皆に、笑はれます。

更に、その時、次々に、忙しく、反誦させてゐます。

風ミ。 葉つば ミ。

になつたり、

風ミ。 葉つば がx
 になつたり、又、

風が 葉つば と

風に 葉つば が

風は 葉つば と

風と 葉つば の

その他、テニヲハが種々に變つてあらはれて、その兒童のメンタルテストを、求めないに、させてくれる事が、伴つてゐるのです。

かけつくら

風ミ 葉つば ミ

かけつくら

葉つば ミ 葉つば ミ

かけつくら

葉つば ミ 子供ミ

かけつくら

子供 ミ 子供 ミ

かけつくら

宮城道雄氏曲

(「箏曲童話」第六集)

○

猿蟹合戦は、近頃、あまりに慚酷だといふので、いろいろの非難も受けてをりますが、しかし、その發端の所は、誠に、うれしい友情もあらはれてゐるではありませんか。ほしいさいふものを、互に交換するのは、まじに、動物ながら、人情味豊かで、結構であります。その點だけを、こつて、童謡にしてみました。

柿の種ミ握り飯

宮城道雄氏曲

猿が 持つてる 柿の種

蟹が ほしいミ いひました

ほんきに〜 おいしさう

蟹が 持つてる 握り飯

猿が ほしいミ いひました

ほんきに〜 おいしさう

猿が もらつた 握り飯

蟹が 貰つた柿の種

こゝまで来て、

ほんきに〜 おいしさう

こいつたり、

ほんきに〜 おいしいな

こは、いはないで、

「ほんきに〜 有り難う」

としたのです。ところが、各節の第三行目でそんな批評や、感想は述べさせないで、こいふのが、小松氏の意見で、

柿の種ミ握り飯

小松耕輔氏曲

一、猿が 持つてる 柿の種

蟹が ほしいこ いひました

二、蟹が 持つてる 握り飯

猿が ほしいこ いひました

三、猿が もらつた 握り飯

蟹が もらつた 柿の種（「昭和少年唱歌第一集」）

とした発表もしました。しかし、宮城氏の方のを、こつ

て第一、第二節も、

「ほんきに〜 おいしやう」

こいひ、第三節には、

「ほんきに〜 有り難う」。

をつけたものを、反誦させてみます時、一人二人ミ進む中には、猿が、初から握り飯をもつて、蟹が初から柿の種を持つたりしまして、この童話の筋が、もつれてしまふのがあります。そこで、幼兒を、豫め二組に分けておいて、次々に、反誦させて、誤つたものゝ數が、正しかつた者の數かを數へさせて、それも、赤球や、白球で、勝負を争はせる事も、附隨した興味を伴ひます。

更に、二つの場面の掲圖が、用意されてゐますと、最もよい練習を進めさせてくれます。

○

漸層法は、修辭學からみても尊いのですが童話にも此の快味は格別であり、昔からの童話にも、次から次へミ推移して果しがなくなつて、油をなめた犬を太鼓に張つて

デレスコ ドン ドン

スッテン ドン

ミ落してしまつた落語めくものさへあります。之は、その手法によつたものではありませんが、ある獨唱家が、ある

音楽會で、大きな聲で、よい聲で、よい節で、獨唱中に、

お父様 ではなかつたが、次は、

おぢい様 だか

ひいおぢい様 だか

分らなくなつて、心配して、歌ひそこねたさいふ逸話
が残つてしまひました。

お父様のお父様 お母様のお母様

梁田 貞氏曲

一、僕のお父様は お父様

お父様の お父様 は

おぢい様

おぢい様の お父様は

ひいおぢい様

ひいおぢい様の お父様は

何おぢい様

二、僕のお母様は お母様

お母様の お母様は

おばあ様

おばあ様の お母様は

ひいおばあ様

ひいおばあ様の お母様は

何おばあ様

(昭和幼年唱歌「第四集」)

第一節は、男のこゝこ

第二節は、女のこゝこ

即ち、第一節は

お父様こ

おぢい様こ

ひいおぢい様こ

ひいおぢい様のお父様

のこゝこ。第二節は

お母様こ

おばあ様こ、

ひいおばあ様こ、

ひいおばあ様の お母様

のこゝこなのです。

さて、之を、すらくゝ反誦する時、意外に混線しまし

て、みんな愛嬌を振りまく事が起ります。

歌はないで、反誦させて見る事によつて、その兒童に、

ぎれだけ、心のおちつきを見得るか否かを、見得る材料に

なるのでした。(昭和九、二、二五)。

フレーベルの遊戯論

白根孝之

本文はエリザベート・プロツヒマン、ヘルマンノール、エリツヒ・ヴェーニガの編輯になる『教育學小テキスト叢書』の第四卷として、フレーベルの「人の教育」「幼稚園の本質」の中から特に遊戯に關する部分を集めたものに冠したプロツヒマンの敘文の紹介である。

一

遊戯に關する理論は實にフレーベルの全教育學の核心を形成するものであつて、その全貌は彼が六十歳代になつて始めて明かにしたものはあるが、フレーベルの思想の全體系は此の遊戯觀から理解されねばならない。

フレーベルが性來子供に對して深い愛情をもつてゐたことは言ふ迄もない事實であつて、子供の魂の愛らしい動きは彼の心の奥底に迄惠まれた光を投げかけ、教育に對するフレーベルの態度には實際作品に臨む藝術家の情熱と喜び

とがあつた。同時に、子供の本性に關する彼の見方は人間そのものゝ意義に就いての彼の思想によつて規定されたものであつた。而して人生の精神化——これがフレーベルにまつては人間生活の窮極の目的であつた。而して精神化には凡て一の統一がなくてはならない、此の統一に向つて凡ゆる欲望や衝動を秩序つけるのが即ち人生の精神化である。此の統一から自己の人生を形成し之に意義を與へるのが、全ての人間の力むべき人生の目的である。教育は子供に此の統一の意識を喚起し、同時に此の統一——フレーベルは之を“Lebenseinigung”と言ふ——への意志を強めることを以て使命とする。意識といふことは、彼にまつて人間——言葉の最も深い意味に於ける人間」の向上に於ける不可欠の第一段階であつた。

「子供の正しい取扱」いふことがフレーベルの最初から

の念願であつた。一切の精神的本性は子供が此の世に生れた第一聲から彼等の中に動き始める、四肢を動かしてやまない活動慾がそれである、不快や苦痛に對する反撥がそれである。而して子供のかうした活動の中に既に彼等を取巻く自然や人間の統一を把握せんとする希望が現れてゐる、環境の統一とは即ち環境との精神的接觸である、子供が環境と精神的に接觸する時、其は彼等に大きな幸福感を與へ、天眞の笑みなつて外部に現れる。此の能力は人間の陶冶性の最も重要なモメントである。

子供に本有的な活動慾そのものが既に人生の根本的關係を理解把握せんとするこゝに向けられるといふこゝは、教育上の大切な手がかりである。然し此の關係は子供にあつては單純な象徴の形式に於て現れる。即ち彼等は簡單な遊具・お伽噺の内容・或る意味を寓した舞踊や遊戯に於て、象徴的な人生の法則を見るのである。彼等に於て人生は單純な根本的理法に基き、比譬によつて容易に捉へることが出来るものである。それは自然界についても人間の社會關係についても同様である。それ故に世界と人生は簡單な日

常經驗に於て理解され、簡單な對象に於て世界の反映、最高の真理の象徴が見られるのである。

「人は彼自身の内的生活とその經驗によつて、推理・認識・自意識に達するものである、このこゝは自分が子供の遊戯と活動とについて知つた所であり、且つ彼等をして自由にしての獨自の内的生活を営ましめんとする所以である。

——生命の最高の要求、最深の認識には普遍的に妥當する生命の體驗と言葉とがある、それは眞實に自己の生命の發展を辿り、之を意識に齎さんとする凡ての人間が切實に知る所である。」

「……子供の魂は靜かで滑らかな水面の如く、假令それが一握りの水、否一粒の水滴であつても、四圍の自然と大空とを反映する」

二

併し子供に與へられる全てのものが同じやうな意義と價值をもち、上に言つた簡單な人生の根本經驗を同じやうな明確さに於て可能ならしめるのではない。それ故に子供がそれによつて「遊戯しつゝ作業する」道具を始めて之に與

へるには、深い注意が必要なのである。而してフレーベルは毬や球や立方體をもつて幼児に最も適當な玩具、彼等の精神的陶冶の根本手段を考へた。特に毬はフレーベルによれば最も簡單にして完全な世界の模型であり、手輕で幾重にも使用できる等の長所があり、最初の精神的經驗を得さずものとして是最適な器具である。獲得し所有・結合を分離・現在を未來を過去・多様を統一等あらゆる生活範疇が斯うした器具を使用する遊戲に於て知られる。而して此の體驗・知識こそは彼等の魂がやがて明かな型を得る芽生えである。子供の心に投ずる之等の遊びを「清く明く」、靜かに然も確實に繰返させ、內的に完成させることが、遊びの道具の選擇について我々の第二の仕事である。

そこで子供が自分の世界を構成する精神的要素は何かといふ問題が生れて來る。遊戲は子供が事物の最も快適な精神的接觸であり、彼等の精神性がそこに於て生長することとは言ふ迄もない事である。而して子供の遊戲的現象の奥には一の意味的統一・聯絡・法則がある。此の法則をフレーベルは數學的な合法則性を考へた。勿論それは我々成人の

嚴密な學的數學ではなく、分量や秩序や區分をやはり象徴的に現はす一種のロマンティックな數學ではあるが。故に人間の精神的本能の向けられる不可見のもの意味ある內的關係の把握を誘發し之を強むべき恩物は、又「數學的」な構造をもつものでなくてはならない。フレーベルが最初の玩具に球體や立方體を選んだのは人間の精神的構造に關するかゝる見解に基くのである。

然し子供が遊戲に於て把握する意味の統一は數學的であるのみでなく、更に哲學的・藝術的である。遊戲も歌も、伽嘶も音樂も數學的統一をもつばかりでなく、更に生命そのもの、反映である。生命そのもの、事物の最奥の本質は又「母の愛撫の歌」並にその延長である遊戲のつれ歌に於ても現れる。子供は黙つて遊ぶものではなく、常に何事か語り乍ら、歌ひ乍ら遊戲する。彼等の遊戲が象徴的活動である所以がこゝにある。従つてそれは幼児保育に新しい問題を提出するものである。健全な眞に母親の如き保育は幼児に自ら遊戲の歌を發見さすものである。フレーベルに従へば凡て幼児と共にする遊戲は歌を伴はねばならない、之

によつて始めて共同の遊びやしごゝが彼等の意識に上り、且つ意義を得てくる。その歌は理由を説明する如きものではなく、暗示的でなくてはならない。それは精神的に潑刺たる幼児の意味ある対象を而して之を指導する人との相關作用から生れる眞の藝術品、すぐれた即興詩である。自身すぐれた即興詩人の一人であつたフレーベルは言つてゐる。

「自分が完全に自分から離れて子供を一心になり、子供の心の波に乗つて動かされる時程幸福な時はない。我々の童謡の大部分は、遊戯する子供の直接の觀察から生れたもの、子供の全一の精神から新しく創作されたものである。……子供の歌は全體の思想としては定つたものでなくはならないが、その表出の特別の形や様式は恵まれた瞬間の産物でなくてはならない。巧まず自由に生れたものであればある程、それは美しい遊戯の表現である」。

遊戯に對するかゝる態度はフレーベルの教育觀そのものからの當然の歸結として現れたものであるが、更に別の所では彼の教育觀を一層明瞭に次のやうに言つてゐる、

「生活の概念の本質は雜多の現象の中に存する統一である、總て生命をもつものは個々の部分をもち、雜多の現象を示すが、各部分は内部的に統一され、雜多の中に一貫した理がある。故に統一は生命の根據であり、現象は之から發し之に維持される」。

「教育の使命は此の統一を自己に於て發展表現せしめ、外的現象に於て自己の統一を發現せしめるにある」。

「自然が發展を陶冶の最初の重要な手段として人に與へたものはその活動性である。活動衝動は人生に於て最も重要な性質である。嬰兒の時期の終るに共に此の衝動は造形・造作の形をこつて現れる……此の衝動には又藝術心が結合する……かゝる天性を顧みず或は誤つて解するなら、幼兒は却つて惡戯に赴く」。

「全體の精神を掴み、此の精神を幼兒の要求に自己を捧げるに吝かであつてはならない。全體の理念は私にこつて最も親愛なる指導者である、私は最も信實にして好意ある人生を魂の友として此の理念に従ふ、而して子供の純潔・天真にして然も抗し得ざる力は、私の師である、私は彼等の

生徒として誠實に信頼を満足を以て彼等に従ふ。何事でもまれよく行かない場合、それは第一に私の責任である」。

三

事物が世界を反映し、更にその事物は人間の反映であるといふことは、遊戯の一面にすぎない。即ち遊戯といふ幼兒の經驗は事物に對して働らきかける活動であり、彼等の之による認識や理解は極く初期の段階に於ても行動を結びつき、且つ年齢が進むにつれてますます積極的な活動ならんとする傾向を示す。「遊戯は生活にはそれ自身の法則として幼兒の精神・氣質・行爲能力に影響を及ぼす、此の事實を無視して唯無暗に遊戯や經驗を與へても、其は何等の效果なく、又何等の興味をも喚起させない。このことは幼兒の發達の抑々の初めに於ても同様である。或ものを形成せん爲の生活、或ものを獲得せんための遊戯のみが彼等に喜びを満足を與へる」。至て形成は多くの部分的個々物を結合統一して一の全體を作ることにある。眞の遊戯に於ては幼兒の受動的な知覺を積極的な創造形成が、各その

部分を提げて一の全體に統一され、幼い彼等の心の生活を早くも深い意味で満たす。問題の解決は全てを統一した全體の意味を把握することに他ならない。そこに生活の眞の喜び、從つて將來の發達への大きな推進力がある。從つて幼兒の遊戯指導者の第三の、而して最も重大な任務は、幼兒をして遊戯に於ける最高度の活動性に到達せしめ、そこに受容を形成の統一を實現せしめるにある。

幼兒を指導者の關係は強制や權威であつてはならないが、半面に於て何らの統制のない自由であつたなら、上に述べた如き教育の目的も任務も云々することができないであらう。之と同じく遊戯そのものの中にも自由を束縛が存する。フレイベルに於て遊戯は單なる空想力の放散でもなく、又萌え出る生命力の解放でもなかつた。遊戯も亦人間の生活の精神化に役立つ精神的なるものとして、法則を秩序をその中に存せねばならない。遊戯に於ける無價値な感覺的満足の愛撫を眞に教育的な生活の喜びを區別する鍵がここに在るに共に、又遊戯の指導が陥り易い危険がここに潜む。法則を秩序を缺いた遊戯は幼兒に眞の

幸福を與へる所以でない。

「遊戲に於て最も大切なのは精神である。遊戲はなるほご四肢の感官——身體を使用して行はれる。幼兒の遊戲として我々の目に映るのは四肢・感官の動きである。然し何が遊戲を生み、生かしてゐるかと言へばそれは彼等の裡なる精神である。魂である。此の精神魂が無くなる時、遊戲は眞に幼兒の喜ではなくなるであらう。魂無き身體の運動は單なる死物の運動ではない。」

こゝに幼兒の遊戲に指導者として成人が參與加入する第一の根據があるのである。幼兒も自己の發育に於ける祕密を知つてゐる。彼等は成人の示唆がなくとも干渉を待たずとも遊びを創造してゆくであらう、そしてこの遊戲に於て彼等自身の子供の王國を築くであらう。然しそれは不完全なる、未熟なる、而して屢々遊戲のもつ危険の涯に臨んだものである。フレーベルの言葉によれば素人臭いものである。彼等は自己の行ふことの意義を自覺せず、こもすれば遊戲の危険に陥つて眞の幸福を失ひ易い。そこに幼兒の保育に従事する者が自ら彼等の生活・遊戲に加つて之を

保護し完成せしめねばならない問題がある。然もその指導たるや外的權威として臨む強制ではなく、幼兒も呼吸を相通はせる共同社會的活動でなくてはならない。かくして始めてそれは幼兒も保育者を一に結合する生産的な經驗になるのである。

かくてこゝにフレーベルの教育觀の三大原則が生れる。
 (一) 子供の精神的世界は抑々の最初の印象から打建てられるものである。従つてそこに精神的・肉體的な「子供の保育」が始まらねばならない。而して保育に方つては些細な要素も重大な結果を伴ふことに注意し、細心慎重な態度を以て臨まねばならない。

(二) 子供は有ゆる合理性よりも先づ藝術的な精神性を先きに發揮する。而して此の主情意的な衝動が外部に現れるのが即ち遊戲である。幼兒の精神が發達するの亦遊戲に於てである。故に幼少時の子供の教育者になるは即ち遊戲の指導者になるの謂である。

(三) 子供は自己の人生に對する關係を、「それが非人稱的事物——例へば毬の如きものに於て反映する時」最も明

瞭に意識し、次第に之を無形式なるものに高める。

フレーベルは恩物として毬・球・立方體・圓柱等を與へ、遊具として最適なものをご考へた。即ち第一の恩物は六個の色毬を入れた箱であり、是等の毬を交互に小兒の前に釣り下げて自然に形・色の知覺・運動狀態の印象を與へるもの、

第二の恩物は球・立方體・圓柱を種々の仕方を取扱はずこごによつて根本的な空間形式及び運動を直觀せしめるもの、この兩者は家庭にある幼兒に與へて幼稚園に於ける練習の準備とするものである。次に幼稚園に入つてからの作業として、第三の恩物は一立方體を縦横及び高さに於て二等分して得る八箇の立方體を使用して、知識の體系・椅子阜子階段の如き實物・裝飾的模様を形成せしめ、以て幼兒の發明的力の養成を目的としたもの、第四の恩物は一立方體を縦に二等分し、丈を四等分した八ヶの立方體で、第三のものと同じ目的に使用する。第五の恩物は立方體を縦・横・高さに於て三等分した二十七の立方體、第六のものは二十七の立方體のうち六を更に二等分、他の三を縦に二等分して六の種とした複雑なもので、共に四歳以上の幼兒に就いて

上記の幾何學的・實物的・模樣的形體を形成せしめるものである。此の一見奇異に感ぜられる遊戯的作業具は、フレーベルの敍上の如き象徴的生活觀に基くものであつて、今日に於ては正當に標價されてゐないが、簡單に斥け去らるべきものではない。

四

幼兒の教育に於ける遊戯の意義についてのフレーベルの考は、既に述べた如く多年の經驗を経て漸次明かにされたものである。

フレーベルが遊戯の教育的意義に始めて注意したのは彼がイーフェルテンのペスタロッチャーの許にゐた頃（一八〇八——一八一〇年）のこゝであつた。クロスターマンの「フリードリヒ・フレーベルの生涯」その幼兒教育者としての業績によれば、彼がマイニンゲン侯に死てた手紙の中に次のやうに言つてゐる。

「私は幼兒の遊戯が彼等の心情・精神・肉體を發展さすいかに大きな力をもつものであるかを發見しました。遊戯は實に子供達の道德的力の主要な根源をなすものでありま

す。遊戯は子供にまつて力を新たにし氣を爽かにする精神的入浴であることを、私ははつきり知りました。その時ははまだ遊戯の象徴的な意味に思ひいたりませんでした。心が、心から遊戯する子供の中に私の最も尊重する道徳的精神の力が躍動するのに氣がついたのです。」

之は一八二九年に書かれた手紙の一節である。そこでカイルハウに於けるフレイベルの「幼児養護所」に於ては盛に遊戯が行はれた。このことは當時同地にあつた彼の弟子の「報告」(一九〇二年)中に詳しく述べられてゐる。併ながら未だ遊戯は他の教科の補助的・準備的な意義に地位しか與へられてゐなかつた。このことは一八二九年ヘルバの小學校に於ける教案に明かに現れてゐる。「肉體は當時の考では所詮精神の道具にすぎない」とされ、従つてその教育即ち體育は準備的な意義に於てのみ考へられてゐた。自由遊戯も同様である。然るに多年の實際の経験によつて我々は兒童の遊戯に二種類あること——一は友達と一緒に進む共同の遊戯であり、他は自分獨りで遊ぶ個人的遊戯——そして獨りで遊ぶ場合には以前に教つたことを色々に表現し、身

體の活動によつて之を制服することを知つた。この二種類のものは一に整理結合されねばならない。かくて教授・作業・遊戯は一の連続した生活をなし、將來の理智的・行爲的・感情的の楽しい有機的・生活の基礎をならねばならない。(クロスターマン)

かくてフレイベルはこの頃既に遊戯の直觀陶冶的な意義を認め、一八三〇年の「人の教育の根本問題」に於て次のやうに言つてゐる。「四季折々の自然の移ろひと同じく、人間の遊戯やお祭りも幼児にまつては精神的陶冶に作用するものである。自然の影響は子供の智慧を増進するに對して、遊戯に於ては多面的な人間性が美しい調和に統一される。従つて之を教育に利用することによつて、人間の尊い本質がますます美しく輝き出る。即ちそれは各種の事態に於て大きな有機的全體の調和的な一員、人間の本質の啓示者として行動する人を育てる……。」

次いでフレイベルはその教育的實際活動を進めるにつれて子供の活動慾・遊戯本能の本性性をますます明かに意識し、實際の経験に基いて此の衝動に對應する教育手段とし

て「遊戯箱」を考案するにいたつたのである。それは言ふ迄もなく「遊戯・創造的自己活動・自由活動的自己教育」によつて、人間の發展に資することを目的としたものに他ならない。彼獨特の教育手段として球體・立方體・球を發見したのはこの頃——一八三七年の頃のことである。こゝにフレーベルの遊戯観はその基礎を定められたと言ふことができ。而して彼がこの遊戯観を實際に實現するものとして「^{キンダー}子供の眞の園^{ガルテン}」として、「子供を庭園の花のやうに生々しく、快活に、力強く、明朗に、然も木犀草や堇のやうに優美しくあげなく」育てる場所としての幼稚園をルドルシュタットに設けたのは一八四〇年のことである。

五

フレーベルの遊戯及び思物は一の形式から他の形成へ——即ち球から立方體を経て四角形へ、更に四角形から逆に球へ、立體から面——線——點、反對に點——線——面——立體といふ風な論理的關係にあるのみでなく、「遊戯全體」が子供の發展段階に對應する論理的なものであつたが、此の倫理主義は時として「子供の眞の生活要求」を無視

するやうな結果に陥り、子供にまつては却つて無味不可解な重荷となり、遊戯にまつてはその本質が見失はれるやうなこともあつたが、子供の精神性に關する此の教育的天才の獨特の把握が開拓した道は、心理主義に禍された今日の教育が新しく出直して今一度吟味して見る必要があらう。

文部省主催保育講習會

本年の文部省主催保育講習は、來る七月二十二日より、同二十七日まで、東京女子高等師範學校（小石川區大塚町市電窪町停留場）に於て開催せられる豫定の由。詳細は追て六月末日の官報にて發表の筈でございます。

申込期日にお遅れないやう、又その手續きをお間違ひなきやう、豫め御注意いたしておきます。

誰にでも出来る實驗 (二)

東京女高師附屬小學校主事

堀

七

藏

二六

一 縫針が水面に浮く

成るべく長い縫針を金盥盆を用意する。またピンセットがあれば尙更に結構である。金盥盆に水を入れて机上に靜置する。そして縫針を頭髮にこすつて脂をつける。その縫針をピンセットの先で挟んで、金盥盆の水面に水平にソットのせる。するに縫針は水面に浮き、その縫針の周圍の水面がいくらかくぼんでゐるのを見るものである。

二 貨幣の入れっこ

銅貨でも銀貨でもよいから二人も五六箇用意をする。そしてコップを二箇準備する。このコップは成るべく形の整齊したもので、縁に凹凸のないものを選定するこよい。そしてこの二箇のコップを机上に置き、その中に水を一杯注ぐ。縁からこぼれない程度に水を多く入れる。勿論二箇のコップ、何れも初めは乾いてゐるものがよい。ジャンケ



枚なり五枚なり、水を一滴もコップの縁より溢れさせずに

ンをして、それ／＼一つのコップを自分のものゝ定め、その中に貨幣を一枚つつ靜かに投入する競技。水を一滴位でもコップの縁からこぼした方がまけにする。そして三

多く入れたものが勝ちな競争。水は表面張力でコップの縁より著しく盛上がつても、中々こぼれない。貨幣を入れるには、水の表面をかくらんしないやうに、コップの縁の方から斜にすべり込ませることが祕法である。

三 くるく廻る

樟腦の一小片を用意する。これは防蝨劑として使用するのではないから、樟腦の代用としてナフタリンでもなごみ、考へては駄目である。是非純粹の樟腦を必要とする。金鹽に一杯水を入れて静置する。樟腦の小さなものを指でもんで粉にして水面に落す。するに樟腦の粉末は水面に浮び、見てゐる間にくるく廻り出す。あちらにもこちらにも、小さな樟腦がくるく廻り出すもので、誠に面白い。

四 色さまざま

種油でも胡麻油でも、また椿油でもよい。油の一滴を金鹽に入れた水面にたらず。するに油は次第に水面に広がる。だんく油が廣がつて種々の形を現はし、三十分間も千變萬化して止まない。そしてその膜が著しくうすくくなるに、綺麗な色が出る。見る方向によつて綺麗な七色が

現はれる。虹の七色、石鹼玉の色、實に色さまざまで、まここに綺麗なである。

水を口にふくみ、太陽を背にして空に向いて水を吹くに、綺麗な色が現はれる。虹のやうに輪にはならぬが、日光が水滴に當つて七色を現はすことは虹と同理である。

五 波模様

金鹽に水を盛りその上に油をたらしして廣がつたものの上から光澤紙をそつに水面に置く。するに油の膜が紙につく。之をインキに浸けるか又はインキのローラーを掛けるに油のついたところにはインキがつかないから黒地に白の紋様が現はれるものである。西洋では之をエレオグラフィといふ。

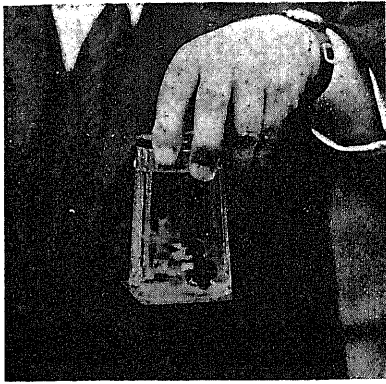
六 水中のしだれ花火

コップに九分目位水を入れたものを机上に置く。その水中に食鹽を一つまみ入れて溶かす。しかしかきまはしてはいけない。そして赤インキをペン先につけてこの水面に落すか、スポイトで一滴、二滴水面に落す。するに赤インキは徐々に水中に沈んで行くに従つて、しだれ花火でも見る

かのやうに、廣がつて行く。赤インキでは螢光を發するの
で、見る方向によつて黄綠色であり、赤色でありして、中
中に綺麗である。別に青インキを滴下するに、それもしだ
れ花火のやうに廣がり、赤と青とで紫になつて見えるこ
ろも出來、まきこに見事である。

七 空中の金魚

縁のてこぼさないコップ。またはドロップなぎを入れ
てあつた硝子圓筒を用意する。それから電車の定期券な
ぎを入れるサックのやうな無色透明なセルロイド板を用意す



る。このセルロ
イド板はコップ
の蓋を十分する
こぎが出来るだ
けの大きさがな
くてはならぬ。
コップのやうに
圓くなくてもよ
い。方形でも結

構である。それからコップの中に水を入れてその中に小さ
な金魚を入れて泳がせる。かく用意が出来るに、セルロイ
ド板は右手の掌の中に挟み、空中の金魚の口上宜しくあつ
て、右手でコップを被ひセルロイド板でコップを蓋する。
そしてセルロイド板で蓋した儘、コップを倒にして左手で
持上げるに、コップから水もこぼれず、金魚は空中で倒に
したコップの中で平氣に泳いでゐる。それで空中の金魚こ
いふ手品が誰にも出来る。

セルロイド板で蓋するときは、見物人に両手の掌を
「ハット」掛聲をかけて開いて見せる。見物人は右手の指が
セルロイド板を落さないやうに、曲がつてゐるこぎには氣
付かぬ。セルロイド板は無色透明であるから、掌がすき通
つて見えるので、セルロイド板のあるこぎに氣が付かぬ。
尤もセルロイド板が見物人に氣付かれぬやうに手早く両手
の掌を廣いて見せるこぎは手品として至極肝要である。手
際よく両手の中に何も無いこぎを見せびらかすこぎが術者
の心掛である。

八 空徳利から紅茶

これは空徳利からお酒を出す手品である。しかし學校ではお酒でなく、せいふく紅茶位で我慢せねばならぬ。尤も普通の番茶でもよければ、また唯の水でも差支ない。見る人には色のついた紅茶なぎがよいのである。それでビールさか、サイダー、シトロンなぎはだめ。それは泡がふくらみであるが、その譯はあみから考へるま分るまとして、先づこの手品の種子明し、樂屋の仕事から説明せねばならぬ。空徳利に紅茶をなみく一杯入れて、口のまこころを山盛りにする。そして質の丈夫な日本紙で、徳利の口に蓋をする。紙で蓋するま、紅茶で徳利の口のまこころがぬれる。紙が口のまこころだけ十分ぬれたまき、その蓋した紙を四方から下方に引いて、ぬれた紙で徳利の口を蓋するのである。徳利の口が紙



で十分蓋が出来たならば、餘分の紙で徳利のまはりについでる水滴をふきまつて徳利をお化粧する。それは徳利は乾いてるて、如何にも中が空であるまいふやうに見せるためである。

そしてこの紙で蓋した空徳利、實は中に紅茶を一杯入れてある徳利ま、一つのコップ更に白いハンケチをもつて舞臺に現はれる。空の徳利から紅茶を出す手品の口上、宜しくあつて愈ま手品にかゝる順序。昔養老の瀧の水は孝子のためにお酒に變化したまいふ話もあるが、これは空の徳利からお酒なり紅茶なりが出るまいふ不思議な手品、先づ紅茶を出して皆さんに呈上するまいふ趣向……まか何まか。出鱈目な口上よろしくあつて、興味をそへるまこころが肝要。

愈ま空の徳利から紅茶を出す手品。果して徳利が空であるかまうか。一應疑ふのは人情であるから、本當に空徳利であるか、まうか、念のためにためして疑を晴らすまこころが手品にかゝる順序である。それで徳利を倒にして、これこの通り一滴も水さへ出ないのであるから、中に紅茶の入



つてゐる道理がない。全くの空の德利。この空の德利から紅茶を出して皆さんに差上げようといふ手品。さういふやうな口上

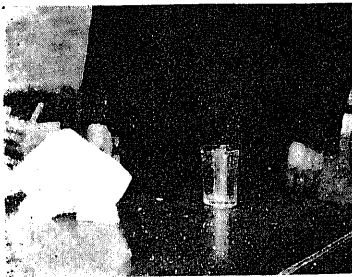
で、德利を起して机上に立て、置く。そしてまた、

「このコップにもまたこのハンケチにも全くの仕掛がない。これこの通り」さ、コップもハンケチもあらためて見せるのである。

德利をあらため、コップもハンケチもあらためたならば、愈々手品にまじりかゝるのであるが、ハンケチを空徳利の口の上にかぶせて、机から五六歩または十歩二十歩遠くはな

れて、拍手三回。これは二回でも五回でも勝手放題。またこの手から空の德利に紅茶を通はせるさか、或は祈つて空德利に紅茶を湧出させるさか、出鱈目を述べるも手品の口上。

兎に角口上よろしくあつて、左手で空德利を勿體つげながら持上げ、右手でハンケチの端を一寸つまんで、これも勿體をつげながら下方に引きおろす。ハンケチは決して上方に持ち上げて取つてはならぬ。いろ／＼の口上の間に、ハンケチは徳利の口のぬれた紙でぬれてゐるから、ハンケチを下方に引下げると、ハンケチに附著して徳利の口を蓋してゐる紙がハンケチと共に落下するが、それは見物人には全く見えない。ハンケチと共に徳利の



口の蓋がされてゐるから、コップを右手に持上げ、その中に德利を傾けて紅茶をつげば、實に拍手喝采。手品は上々

の首尾。

この手品に使ふ徳利は勿論お酒の爛徳利、硝子製のものは中が見えていけないから、陶磁器製でなくてはいけない。成るべく徳利



の手品は誰にも出来る筈。それは大氣の壓力で徳利を倒しても水が出ない理由を利用したものである。

い。成るべく徳利の口のまわりに模様のないもので、徳利全體が白色のものがよいのである。さもないと紙の蓋があるこきを見物人に見やぶられる心配が多少あるからである。こ

この夏の保育講習會

日本幼稚園協會主催で、夏の保育講習會を開くことになりました。戸倉講師が、御新作の遊戯を澤山御提供下さいます。又倉橋講師は、保育の實際に關する質疑について御解答下さいますので、共に、私共實際保育にたづさはるものにとつて、見逃しがたき好機と存じます。午前は文部省の保育講習がある筈でございますから、これに御出席の方は勿論、その他、多數の方々の御來會をおまちいたします。

詳細は本紙掲載の廣告を御覽願ひます。

幼稚園參觀の旅

及川ふみ

東京出立の前から、「天氣次第に悪くなる」の豫報にいささか氣づかひをしてゐたのであるが、名古屋市内の幼稚園參觀の二十一日は朝からの雨で、御案内の勞をわざわざおこり下さつた、名古屋市立第一幼稚園長加藤かつ姉に大層御迷惑をおかけ申した。

第三幼稚園では、さき頃から幼児に晝食（お菜だけ）の給食を實施せられてゐるのでこの状況を拜見した。大島園長自らエプロンがけで二人の助手を相手に、今日の駄立、玉子やき（玉子に玉葱、えんどう豆）こんぶの佃煮、菜したし、の百數十人の幼児の御馳走に朝から御多忙であつた。

毎週の駄立表は名古屋醫大での栄養價保證すみのもので、しかも安價で（一食五錢）大勢の幼児がほご残りさず頂戴してゐる光景はうれしく拜見した。この大きな御努力

による給食によつて、幼児の偏食のへきを次第になほすことも出來て誠に結構な御企てを感じたが、園長はじめ保母諸姉の御骨折がごんなにか大變であるかも察せられた。

第二幼稚園に參上した時には幼稚園のお子さん達がお歸り近い時間であつた。雨の中を小さい蛇の日傘をさして歸つてゆく様子は東京では見られない珍しい眺めであつた。

園長加藤しやう先生の御案内で園内を拜見させていたゞいた。お二階の靜かなお部屋は誠に奇麗に整頓された美しいお部屋であつた。人形芝居の舞臺、蓄音機、おまゝごこのセットなごそなへつけられてあつて、時々靜かな保育がこのお部屋ではじめられる事を想像した。大きな積木専用のお部屋もあつて保育室の豊かなこの幼稚園に遊ぶ幼児は幸なごこである。

女子師範學校の附屬幼稚園や、松若幼稚園、第一幼稚園
なども伺ふには伺つたのであつたが外の用件をかねたり、
時間の都合がわるかつたりして、親しく幼児の遊ぶところ
は拜見出来ずに残念であつた。

二十二日

大阪の堂島小學校の附屬幼稚園をお訪ねした。こゝは自
分が二昔も前にしばらく奉職してゐた昔なじみのところで
ある（もつこも場所も變り建物もまじりかはつてはゐるので
はあるが）こゝにおられる中森主任も大阪師範學校時代の
舊知の友人で、幼稚園を拜見するよりもいろ／＼昔の御話
がはづんだ。御心づくしの御款待をうけた。大阪としては
めづらしく自然土の庭や、砂場で心ゆくばかり幼児は遊ん
でゐた。

久寶幼稚園でも午後伺つたので自由遊びのまゝころであつ
た。こゝでは幼児がお歸りの前に一日の汗や、ほこりを洗
ひおますのに、一人一人に洗面器が用意されてゐた。あち
こちの木蔭に一組づゝ一團ミなつて、お手やお顔を洗つて
ゐる。エプロンや、お洋服なご大して濡さずに手ぎわよく

奇麗なお顔でお部屋へはいつてくるのを見るに、これまで
におしつけのよくまゝいてゐるのに感心させられた。

この日の朝、新聞で「芦池幼稚園に幼児に晝寢の企云々」
の記事を讀んだので、久寶幼稚園の藤本主任にわざ／＼御
多忙中を芦池まで御案内を願つた。生憎ミ毛布、まくらな
ご種々御準備中ミで御實施の様子は残念ながら拜見出来ず
に晝寢の大きな疊敷のお部屋だけを見せていたゞいた。

二十三日

天氣快晴のうちにミ京都へ出かけた。京阪電車の急行に
のつて四十分で京都に着いた。

老母の云ひつけで先づ東山の東大谷へ參詣した。圓山公
園へ入つて夜櫻ならぬ、葉櫻を見て智恵院山門前から車を
駈つて永觀堂へ急いだ。

學生時代に見た秋の紅葉の美しかつた永觀堂の記憶をよ
びおこしながら山門をくゞる。この境内に幼稚園ありまき
くに幼児の聲はさらになくて、初蟬の聲ばかりが聞えて來
るのであつた。廣くミこの山内をあるけばミ一人ぎめし
て木立の中に入る。やゝしばらくして木の間より高濱主任

の數人の幼兒ミ話されながら散歩せられるお姿をお見うけした。突然の來訪にさぞお驚き下さつた事であらう。

この園のこゝにつきては牛島園長よりかねていろ／＼お話は伺つてゐたのではあるがさすが御自慢になるだけミ、うなづかれた。

櫻、紅葉の老木数しれずその下に疏水の水はあちこちに流れてゐる。大きな自動車は幼稚園前にまつた。中から三十人ばかりの幼兒が嬉々として飛び出した。これは朝の迎への最後の自動車であつた。

大きなお部屋にお集りがあつた。兩陛下の御眞影の前に最敬禮のゝち幼兒一同は君が代を合唱した。

後は各のお部屋やお庭に分れ分れになつた。高濱女史の園内の觀察誘導に幼兒並みについて歩いた。大きな池の眞中の石の上に澤山の龜が甲良をほしてゐる。大きな鯉もあちこちに泳いでゐるのが見える。小さいおさかなは數しれず遊泳してゐる。少しさがつた泥池にはコウボ子や澤山はへてゐる。泥の水たまりには眞黒いお玉じゃくしが、うじょうじよゐる。幼兒たちは早速おたまじゃくしをこり出

した。おたまじゃくしがにげ場がないほゞゐるのでこの子も澤山に手づかみにしてもつてゐる。兩手に一杯にぎりしめてゐるので可愛そうに、そんなにしてゐるさ死ぬでせうさいふにがしてやるえミ泥池の方へかけ出したこの子の言葉も亦その心持ミ共にうれしかつた。永觀堂本堂前には澤山の櫻ぼうがおちてゐる。小さいあかい可愛らしい實である。お人形の頭に丁度よい、膳先生ならさんなにか御工夫遊ばすこゝであらうと思はれた。さくらんぼ拾ひを一段うちきつて、後山の塔へのぼつた。幼兒は皆なか／＼の健脚家で驚いた。自分はびりからやうやくこの行につゞいた。こゝからの眺めは又一段である。濃きうすきこりませた緑の色は又格別ミスが／＼しい。黒谷の塔、平安神宮、美術館、都ホテル、なき折から、町々にたてられた五月幟のふき流しや鯉の間から、よく見えて幼兒にあちこちおしへられた。正午近く山を下りた。この道すがら大きな山椿が數本あつてまだのこりの花をいくつかつけてゐる。高濱女史は「椿や椿」の歌を口づさまれながらあの歌はこゝでこそほんこゝに歌へる歌だミ話された。花のおちる頃は拾つても／＼

つきないそうであらやましいかぎりである。

幼児の晝食のお辨當はそんなに美味であつたであらう。

こんな食事こそ、ほんまに身につく云ひたいと思つた。

一時半すぎにはお歸りの支度で、お送りの始發の自動車
がまつてゐた。

當山の管長ならびに園長の御熱心なる御經營に加へて斯
道に多年の御經驗ミ御識見の豊かな高濱女史を主任ミして
むかへられて、いよ／＼もつて天下の名幼稚園ミなる事

であらう。

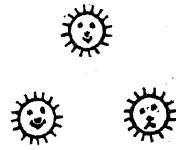
この後に大阪の愛珠幼稚園、奈良の女高師附屬幼稚園、
奈良市の托兒所なご諸所拜見させていたゞき、久しぶりに
いろ／＼ミ心のかてを頂戴した事は誠にうれしかつた。そ
の様子なきこゝにつゞけるつもりであつたが、誌面の都合
上又いつかの機會にゆづる事ミした。今度の自分の旅行中
いろ／＼ミ御世話下さつた京阪ならびに名古屋、奈良の諸
園の先生方に深く／＼感謝いたして筆をミぎめたい。

菊地フジノ様のスキートピーさん、私はあなたの御身の上話を聞いていたく同情いたしました、名醫の大岩博士の注
射もお受けになつた事でせうから、私のやうな篤醫の診察しましたからとて名案の浮ぶ筈のないと存じますがだんだ
ん考へて見ましたに御氣の毒様ながらあなたの素質がお惡かつた爲めではないでせうか。育ての親フジノ様はそれに
は御氣づきなく立派な素質のスキートピーさんと思込まれて理想的な教育法をなさいましたのとか存じます、心のこ
もつた高價な滋養品も體質に合はれば却て榮養不良になる事があります、あれもこれもと注意し過ぎた大人の躰が却
て子供らしさを削いだり理窟ばつたりして私共から見て好ましくない性質の子供にしてしまふ例はずい分ございます。

老練家のフジノ様も時には弘法も筆のあやまりに洩れず素質の鑑定が充分でなかつたのではないかと思ひます。
けれども又一方から考へるとあなたは發育のおそい方、所謂奥でいらしやるのです、お隣の豌豆さんや外の島の早生
の方と比較してお急ぎになるのはちとせつちか過ぎるかと思ひます。

今に皆さんが忘れられた頃見事に葉が繁り蔓が延び立派な花が一時に咲いて悪口をいはれた誰れ彼れをアツといは
せる時代がきつとあると存じます、決してあせらず悠々時の至るのとお待ちになるやうフジノ様にも申上げて下さい
ませ、其時には私共も喜んでお祝に伺ひます。(坂内ミツ)

畑の豆(童話)



さよなら

ジロウサン

ボクワ ハタケノ ソラマメ デス ドウカ ボクノト
コエ アソビニ キテクダサイ、

イツカ ジロウサンガ 幼稚園デ レンゲツミニ イラ
シッタ トキニワ マダボクモ ハナバカリ デキタテノ
小イマメワ オトナノユビダト ラシツブサレル ホド
ヤワラカデシタ ケレド イマワ モウ スツカリ大キク
ナリマシタ マメノ ヘヤモ ヒロクナツテ ヤワラカイ
フトン モ シイテアリマス ジロウサン オトモダチヲ
ツレテ ドウゾアソビニキテクダサイ

ハタケノ ソラマメタロウ

こんな手紙が、つい此間次郎さんの處へ來ました、

ハナコサン

ワタクシワ ハタケノエンドウ デゴザイマス イマハ

タケデ イチバン トラクノミエル ミハラシノ ヨイノ
ワ ワタクシノウチデス ホソイツルヲ ノボツテイケバ
オトナリノ ジヤガイモサン ムカウノムギサン ネギボ
ウズサン タチヲ ミオロスヨウナ タカイトコロエ
イカレマス ワタクシノツル ワ ホソクテヤワラカイ
カラ スベリオチナイ ヨウニ キテツケテクダサイ
ハナコサン オトモダチヲ サソツテ ドウカアソビニ
キテクダサイ

ハタケノ エンドウ マメコ

次郎さん三花子さんは お母様にこの手紙をお目にか
けました。

ハナコ「ネ、オカアサマ イッテモ イイ？」

ジロウ「ボク イッテミタイナ、ソラマメノウチノ オフ
トン ナンテ ミタコト ナインダモノ」

「まあ、いゝお手紙、それじゃ 次郎さんも花子さんも
今度の日曜にお父様まで行てらつしやいな」このお返事に二
人は

「ア、イイノ、ウレシイナ〜」

そして待ちに待つた日曜日の朝早くお母様に作っていただ
いたお辨當を持って次郎さん、花子さんは ニコ〜顔でお
父様まで省線に乗って田舎へ行きました。

花子さんはお父様にをしへて頂いて エンドウの畑へ、
次郎さんは ソラマメ の畑へ行てみました、畑の土はそ
れは〜柔かでチヨコレートの様な色をしてりました。

ソラマメ「マア ジロウサン ヨクキテクダサイマシタ
サアドウゾオアガリクダサイ」ソラマメの出した黒いスリ
バをはくミ 次郎の身体はみる〜うちに豆人形の様小
さくなりました びっくりしてゐる次郎さんを

ソラ豆「ビックリスルコトワ アリマセン ソレデナイト
ボクノウチ エワ ハイレナイノデス アトデ マタナオ

リマス カラ シンバイシナイデ ドウゾコチラニ」ミ云
はれるまゝに次郎は豆のお家へ上つて行きました、すつミ
上の方には まだ花が少し咲いてゐました、藤の花に似て
るますけき 色も違てゐるし あんなに いゝ香ニヤひもあり
ませんでした 莖がざら〜してゐるのに葉はスベ〜し
て ミても軟かでした、葉の裏の方で鼠色をしたアブラ蟲
の運動會がありました 面白いのでみてゐますミ急に皆が
逃げ出しました。

次郎「ドウシタノ」ミ豆にきいたら

豆「ジロウサンチ テントウムシノ コドモトマチガエタ
ンデシヨ、テントウムシソコドモワ イツデモ アブラム
シチ イヂメルノデス」ミ云ひました、豆のお家は土に近い
下の方ほど大きくて、中には入つてゐる豆もよく肥てゐま
した、たゞお室の中の ふさんは小さい豆の方が厚くて軟か
でした、ソラマメの葉は厚くて澤山ありますそしてやつぱ
り軟かです、ミここでお祭りの笛のような面白い音が聞ゑ
ましたから何かミ思てきたら田舎の子供が自分で作て吹
いてゐる 麥笛ミいふのだ ミ豆をしへてくれました、

僕がもうお父様の處へ歸る云云たら ソラママのさやで作
たボートの玩具をおみやげに云てくれました、だんく
下へをりて黒いスリッパを脱いだら僕は又もこの大きさの身
體になりました、花ちゃんも「兄サン」云て丁度僕の方へ
來る處でした、豌豆の方は花ちゃんが行ったのだから花ちゃ
んに話してもらひませう。

花子「エンドウは畑中で眺のいゝお家だ云ふんでしょ、
みんなに高いのかと思つたら花子の丈位しかないの、唯エ
ンドウのツルが搦つてゐる竹の棒はお父様の丈ぐらひ高か
つたワ それでも豆の云ふ通りツルに昇てみる次郎さん
の行たソラ豆だつて、それからお隣のじやがいもだつてず
つミエンドウより低いのよ エンドウの莖はするぶん細く
やせてゐてかたいの誰かが折ろうとしてみなかく折れな
いんですつて、お向ふの麥畑には緑色のひげだらけのやう
な顔をしたのが澤山ならんでゐたワ、豆へ昇る時花子は赤
いスリッパをはいたの、するま花子の身體がまてもく小
さくなつてしまつて蟻と同じ位になりました、そして細い
莖をスルく昇て行くま白いのやばたん色のやきれいな豆

の花が咲いてゐました「アアラ スキートピーじやないか
しら」て云たらエンドウが「ハナコサン スキートピーチ
ゴズンジデスカ、アレワ ワタクシノ シンルイデス」て
云ふんでしょ私あの花大好きつて云たらエンドウは喜んで
りましたよ、エンドウ豆のお室はまても明いの細長い室で
壁はみんなうす縁、それで中のお豆は學校の生徒が體操す
る時のように行儀よく並んでました、豆が大きくなつて肥る
ま壁もやつぱし大きくなるんですつて、もつま大きくなる
ま壁（壁のようなものゝ事をほんまうはサヤ、云ふんです
つて）の色が變てしまふんですつて。私がもう歸るつて云
たら、色の變たサヤの中から大きくなつたお豆だけこんな
に澤山ポケットに入れて下さつたの。

ま、花ちゃんがポケットから出した豆を見るまいつも母
様がハムライスに入れて下さるグリーンピースと同じでし
た、お父様も

「ホウ、これは上等なグリーンピースだね」まおつしやいま
した。（終）

これは幼児が讀める處を自分でよみ、あとは大人から聞く話、

東京女子高等師範學校
教授・附屬幼稚園主事

倉橋惣三先生新著

四六判三百餘頁眞美本
挿繪澤山・實際實景を紹介
定價二圓五十錢送料十六錢

幼稚園の保育法と眞諦

保育法の最良權威者

現代保育法原論完成

世界一の設備皆掲載

著者は幼児教育並に家庭教育の第一人者として曩に畏くも此點に御關心深き 兩陛下の御前講演の榮に浴され、我國保育界第一の耆宿・且權威である。現に本邦最古最良の倉橋先生は稀に見る純眞の教育者にて著書少く系統ある著書は本書のみ。本書は懇願數年初めて完成されたる新著にて、現代に於ける最も完備系統ある保育原論である。

小石川に新建築の東京女高師附屬幼稚園の施設經營は世界一なりと稱さる。本書には其大部分を居ながらにして見得る様に部分的全體の並に保育實際の多數の寫眞を掲載す

【目次】
第一篇 幼稚園保育法の眞諦
一 教育に於る目的と對象
二 幼児生活と幼稚園生活形態

三 生活へ教育を
四 幼児生活の自己充實
五 幼児生活の充實指導
六 幼児生活の誘導
七 幼児生活の陶冶
八 幼児生活の個性
九 幼児の個性

十 幼稚園に於る保母の位置
第二篇 保育案の實際
一 無案保育
二 誘導の意義
三 誘導の保育案
四 保育案の採りどころ
五 保育案と保育項目

六 保育案立案度及徹底度
七 保育案と自由遊び
八 保母の創造性
九 保母の生活性
十 保母の保育過程の實際
十一 幼稚園の朝・二自由遊び

びから仕事へ・三個分組・四個の時間組合せ
組・四個の時間組合せ
活態度による分團組合せ
六 流れゆく一日・七 流れの向け方・八 生活の偶發性・九 日々の實際生活の尊重・十 おかへり

六十一 奈良女高師教授
森川正雄先生著
八 奈良女高師教授
森川正雄先生著
六 奈良女高師教授
森川正雄先生著

幼稚園の理論及實際
幼稚園の經營
保育學

價二・〇〇 送・二・六
價二・〇〇 送・二・六
價二・〇〇 送・二・六

五 奈良女高師教授
森川正雄先生著
三 奈良女高師教授
長田博先生著
八 久留島武彦先生著

幼稚園育兒法
幼稚園
小學校
兒童
久留島名話集

價二・〇〇 送・二・六
價二・〇〇 送・二・六
價二・〇〇 送・二・六

東大 京阪 東洋圖書株式會社發兌

東京市神田區神保町一丁目・東區大塚
大阪市南區堂島二丁目八番地
振替東京一〇三〇七番
振替大阪九三五六番

東京女高師教授 倉橋惣三先生 同校新庄よしこ先生 共著
洋綴天金上製 菊判四八〇頁 定價三圓八十錢

本日幼稚園史

特色

一、二十年苦心の結晶漸く完成す 大震災にて一時頓坐更に繼續再計畫の上蒐集考察研究完成す。
二、草稿千餘枚挿繪數百整理成る 倉橋先生畢生の努力と新庄先生懸命の助力にて此の名著成る。
三、日本幼稚園史として比類なし 歴代 皇后陛下行啓の榮を得し我が國幼稚園本山の大記念塔。

目次

第一編 沿革及施設史

- 第一章 幼稚園開設前期
- 第二章 幼治文化の建設
- 第一節 幼稚園開設の機運
- 第二節 學制頒布
- 一、女子師範學校の設立
- 二、幼児教育の先覺君
- 三、幼稚園遊戯場
- 第三章 幼稚園開設
- 第二章 幼稚園開設
- 第一節 女子師範學校附屬幼稚園の創設
- 第二節 設立後の經過

第三章 開園及開業式

- 第一節 皇太后兩陛下行啓
- 第二節 女子師範學校附屬幼稚園(一)
- 第一節 創立當時の規則及學年休業日
- 第二節 建物庭園及職員
- 第三節 保育科目及保育用具
- 第四節 幼稚園參觀記及追憶
- 第四章 女子師範附屬幼稚園(二)
- 第一節 行啓
- 第二節 恩物の名稱その他

第三章 行啓

- 第五章 保姆養成機關
- 第一節 保育見習生
- 第二節 保姆練習科の設置並に廢止
- 第二編 保育の實狀
- 第一章 一日の開誘(保育)
- 第二章 保育科目の恩物
- 第三章 保育科目の改正
- 第四章 說話
- 第五章 博物理解
- 第六章 唱歌遊戯
- 第三編 公令、功績者、保育文獻

第二章 公令

- 第一節 功績者
- 一、中村正直氏
- 二、關信三氏
- 三、松野くらら女史
- 四、豐田英雄女史
- 五、小西信八氏
- 第三章 保育文獻
- 第一節 著書
- 第二節 手記
- 第四編 其後の普及及發達
- 一、保姆養成機關
- 二、保育會
- 三、幼稚園令
- 四、大會餘錄

發兌

東洋圖書株式會社

東京 大阪

東京市神田區神保町一丁目・目録番七三〇一
大阪市南區堂安寺一丁目二番八番・目録番六五五九三

幼児の服装について (6)

東京女子高等師範學校教授 成 田 順

前號に於ては女児服について述べましたが本號に於ては男児服のこみを記しませう。

男児服も極小さい時は女児服と殆んど同様でよいと思ひます。三歳位から半ズボンをはき上衣を着ます。普通上衣とズボンは同地質の布を用ひますが、時には衿ミカフスとズボンと同じ布を用ひ、其他は別布にするこみもあります。又上衣をシャツブラウスにしてズボンをつける場合もあります。

用布の種類

夏はギンガム・ポプリン・綾木綿・麻・セル等

冬はサージ・メルトン其他薄地の毛織物

極小さい子供には黒のベルベットも用ひます。ブラウスには夏は多くポプリン・富士絹を冬はチル・セルの類を用ひます。

男児のこみであるからなるべく堅牢な地質を選び簡素な服装にして運動・動作に便利なやうに考へるべきであります。又仕立方に於ても實用を主とし、徒らに技巧を要するものをさけ、ポケットの如きも簡単な縫ひつけのものでよいと思ひます。

半ズボン

尋常小學校を終る頃迄は普通半ズボンにして居りますので幼児の頃は無論半ズボンでよいと思ひます。半ズボンはブラウスの上になる場合と、上衣の下になる場合とがありますが何れでも同じ製圖でよろしからうと思ひます。

半ズボンが上になる場合には上部の形を色々に変へても作ります。

小さい子供の膝上は、普通上部と下部を左右縫合せて其間をあけて使用に便にしますが、又縫合せてしまふ人も

あります。脇の上部は左右ともあけておいて着脱に便にしておきます。しかし近來は何事にも簡單を尊ぶのでありませんが、この半ズボンの如きも女兒のズロースと同じ様に胯上も脇も全部縫ひ合せて上部にゴムテープを通し使用に便利にして居ります。なほ子供用としては普通紐のズボン吊を用ひずに、ウェスト又はブラウスに釦をつけて吊るやうに致します。

製圖には身長ミ臀圍ミ胸圍ミの寸法が必要であります。小さい子供は胸圍ミ臀圍ミが略々同じでありますから胸圍の寸法を使用する人もありますが腰のあたりにつけるものでありますから臀圍を基として製圖するのが解り易いかと思ひます。

半ズボンの丈は身長 $\frac{3}{10}$ 乃至 $\frac{3.5}{10}$ に致します。小さい子供は短いのを喜びますし、それが可愛く見えるのであります。丁度膝の所では屈伸に都合が悪いから普通は膝の上迄に致します。

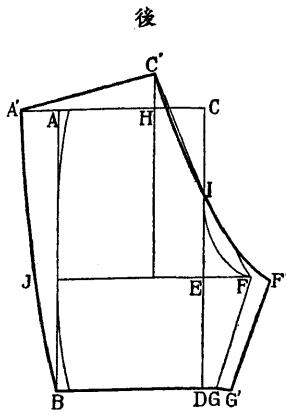
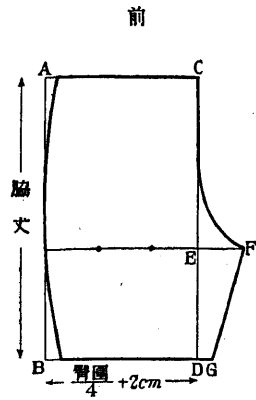
① 型紙の裁方

前

- 1、ABは脇丈(身長 $\frac{3}{10}$ 乃至 $\frac{3.5}{10}$)
 - 2、ACは臀圍の $\frac{1}{4}$ に二センチ加へたもの
 - 3、CEは胯上(身長 $\frac{1.8}{10}$ 乃至 $\frac{2}{10}$)
 - 4、EFはBDの $\frac{1}{3}$
 - 5、CFは前胯上の線 EFの一・五倍をE點より上に取り圖のやうにくります。
 - 6、FGは前胯下G點はD點より一・五種乃至二種外
 - 7、脇の線 上はC點より胸圍 $\frac{4}{4}$ に二種加へたものを取り、下はB點より一・五種取つて脇の線を引きます。
- 殊にお腹の大きい子供はC點より少し出して前胯上を定め脇の上部も真直にしておきます。

後

- 1、CHはACの $\frac{1}{3}$
- 2、HCは前後の差(CEの凡そ $\frac{1}{5}$)
- 3、F'點はF點より二種外、さうしてGFに等しくGF'を取りF'點を定めます。
- 4、C'F'は後胯上の線 C'I及びI'F'に線を引き圖の



やうにくりま

す。(I 點は C

E の中央)

5、F'G' は後膝

下 G' 點は G

點より一・五

種外

6、C'A' は後の

上 胸圍 4 に

二種加へたも

の

7、A'JB' は脇

の線 J 點は

AB 線より二

種内外に取ります。

臀圍と胸圍との差が少い時には後の上にくせを取る

必要はありません。

脇明 丈の半分程あけておきます。

前跨上の明 F に點より四種上つた所から一〇種以上

をあけます。それ故當布は幅三種丈は明の寸法より一

種つつ多くしてお

きます。

臀當 子供物は割

合に大きく取りま

す。

後跨上の凡そ

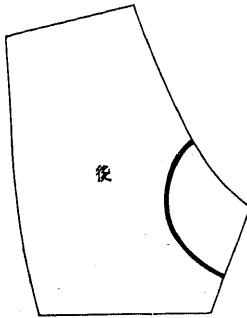
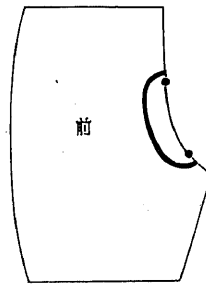
1/3 乃至 2/5 を

上へも横へ取り下

の方へはそれより

少し少なく取りま

す。



前跨上當布及び臀當の取り方

② 布の裁方

型紙の縦横の線を其まゝ布目に合せて裁ちます。布幅

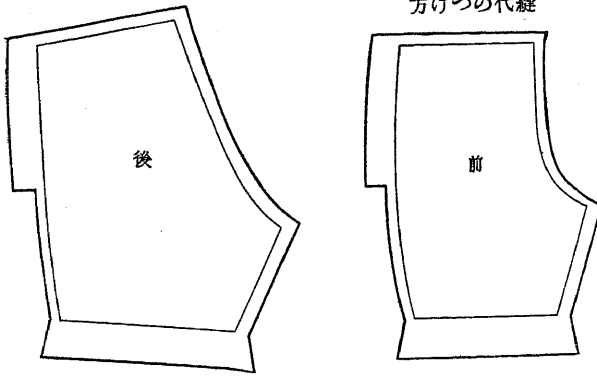
の都合により横に並べて取る時縦に並べて取る時

あります。

縫代のつけ方

跨上の前は一種、後は一・五種、跨下は前後とも一・五種、脇は上半分は三種下は二種、上部は一種、裾は四種内外取ります。前跨上當布及び臀當は周圍に一種を

方けつの代縫



取ります。

小さい子供の物は總裏にするに却つて簡單に出来ませ。裏布は普通キヤラコ・スレーキ・新毛等を用ひます。

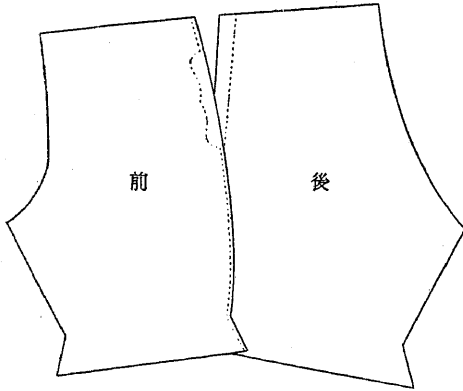
③ 仕立方

(1) 脇明のもの
1、脇の始末

脇明は丈の凡そ半分ミし前後ミも別々に始末します。

後の明の部分は脇の出来上り線より二種持出してそれに見返しをつけ芯を一枚入れ、脇の出来上り線にミシンをかけます。

次に脇の下半を前後縫合せます。



前の明の部分は脇の線通りに折り中に一枚の芯を入れ

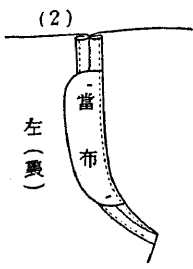
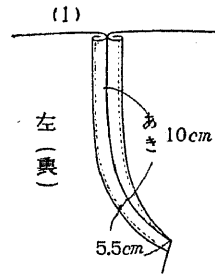
布の端を折つて表から飾りのミシンをかけておきます。

次に下半の縫目を前に折りおさへミシンをかけ、明のミ

まりを三四回ミシンでこめておきます。

2、前跨上の始末

圖(1)のやうに下から五・五糎(内一・五糎は縫代)上つた所から凡そ一〇糎の明の間はミシンをかけずに假



縫のまゝになし他は

ミシンをかけ割つて

表から兩側におさへ

ミシンをかけます。

此の一〇糎明けた所

へ當布をつけます。

先づ當布の三方を縫

ひ表に返しておさへ

ミシンをかけこれを

左身の裏にあて表か

ら右身の割ミシンの通りに今一度ミシンをかけま

す。此時明のこまり上下は門留のかはりにミシンを

三四回かけておきます。圖(2)

3、後跨上縫

後の跨上を充分のばし左右を合せて縫ひ割ミシンを
かけます。縫目の所を充分のばして縫はないミ屈ん
だ時に綻び易いのであります。

4、臀當附

臀當の後の中央を合せて縫ひ割ミシンをかけ、身頃
に合せ周圍を折つてミシンをかけるか、まつりつけ
ておきます。

5、跨下縫

左右の跨下を縫つて割ミシンをかけます。

6、裾の始末

長い分を折返してミシンをかけるか、又はまつりぐ
けに、厚地の時は千鳥掛にします。

7、上部の始末

腰布 幅六糎

丈前後の幅の長さ三折代二糎

腰布はキャラコ・スレーキ・新毛等を普通に用ひます
が、木綿の時には共の布を使つてもよろしい。

身頃の上部に腰布を合せて縫ひ芯布を一枚入れ他の

三方を折つて表からおさへミシンをかけておきます。

8、仕上げ

脇の縫目と胯下の縫目を合せてたぐみつけアイロンをかけます。毛織物には濕布の上からアイロンをかけ仕上げをします。

9、穴かがり及びスナップ附

前に四つ後に四つの穴をかけてかがります。

脇明ミ前胯上明にスナップ一個づつをつけます。

(2) 脇明で脇にポケットのついてゐるもの

1、脇の始末

ポケットの口 凡そ臀圍の $\frac{1}{6}$

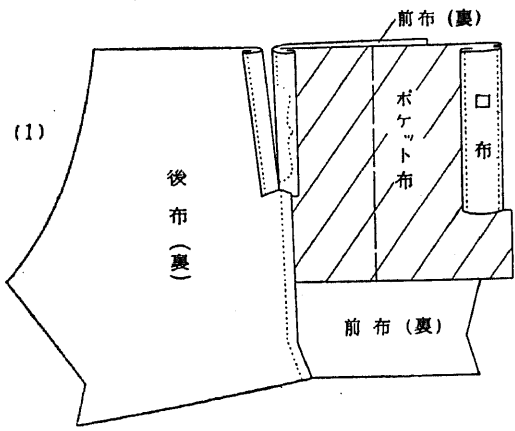
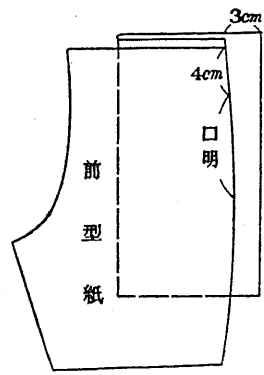
ポケット布 丈 口明の二倍に四糎加へたもの

幅 前幅の $\frac{2}{3}$ の二倍に三糎加へたもの

ポケットの布は普通キヤラコ・スレーキの類を用ひます。

ポケットの口布 丈 口明に八糎加へたもの
幅 五糎

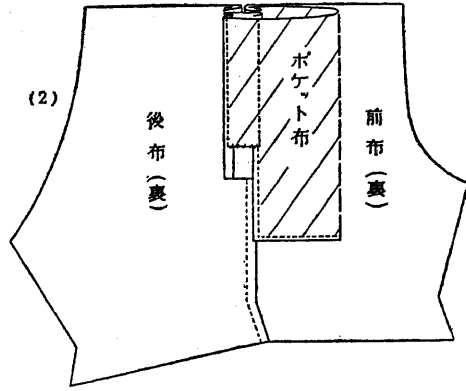
さき大の布トッケボ



脇の下部を前後合せてミシンをかけます。後の明のミマりに斜に切込を入れ出来上り線より折り更に布の端を折つて表から飾りミシンをかけます。圖(1)次に圖

(2)のやうにポケット布に口布をつけます。

前布の脇を出来上りの線に折りポケット布の端を芯



にして飾

りミシン

をかけた

す。圖(1)

次にポケ

ットを袋

に作りま

す。

2、前跨上

の始末

3、後跨上

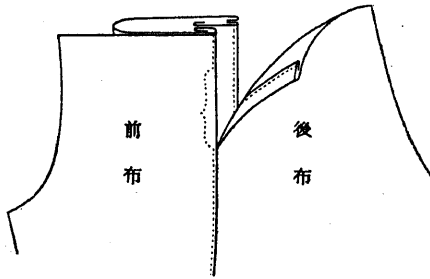
4、臀當附

5、脇下縫

6、裾の始末

7、上部の始末

脇の出上来り図



8、仕上げ

9、穴かがり及びス

ナップ附

2、以下何れも前

ミ同じにしま

す。

前跨上明は四つの所

より四種縫ひ上は裏

腰布のつく所迄あげ

てもよろしいので

す。

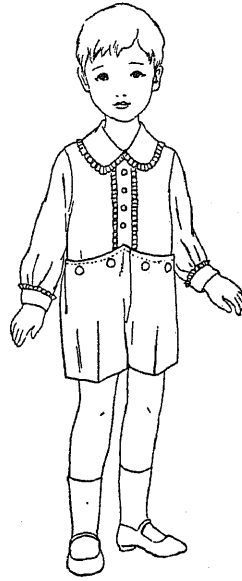
以上は極普通の半ズボンについて記したのでありますが
次の出来上り圖は丸形の衿のついたブラウスに半ズボンを
つけたのでこの半ズボンは上部の形が少し變つて居りま
す。

少し考へていただくに今迄女兒服で説明した事項ミ半ズ
ボンの所で説明した事項ミで大抵お出来になることと思ひ
ます。

四歳用假定寸法

身長 九一糎

胸圍 五〇糎



① 用布の種類

上下とも同じギンガム・ポプリン・綾木綿・麻等で作つても、上に富士絹・セル、下に薄地の毛織物を用ひてもよからうと思ひます。

ブラウスに白を、半ズボンに濃い茶・紺・黒等を配するミ一層引立つて見えます。

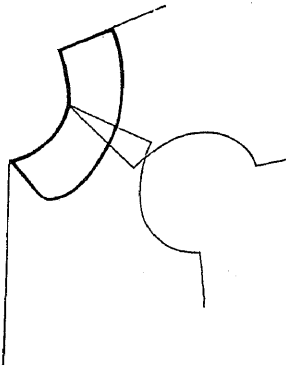
② 型紙の裁方

胴 簡單に圖のやうに裁ちます。

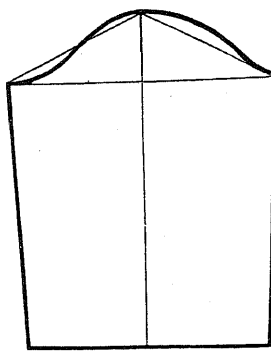
1、丈 三一糎

2、ゆるみ 四糎

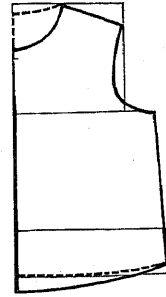
衿



袖



身頃



3、衿ぐり

胸圍 10

4、脇の線

裾で一糎程

ひろげま

す。

袖

1、丈 二八

糎

2、山の高さ

袖ぐりの

$1\frac{1}{5}$

3、袖口 二

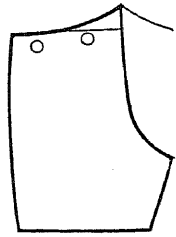
二糎

衿

1、肩の重り

三糎

2、幅凡そ



五・五纏

半ヅボン

型紙の裁方は前に説明したのと同じであります。上部

の形が少し變つて居ります。中央で四纏程上げます。

③ 布の裁方

ブラウス

前中央に下前の方は五纏上前の方は二纏其他は一纏取つて裁ちます。

半ヅボン

前に述べた通り

④ 仕立方

◎ブラウス

1、前明の始末(男兒は前の重ね方左が上)

下前は中央より一・五纏を出して折り三纏の見返し

ミしてミシンをかけます。

上前は四纏幅の布を裁ち左の方に幅一纏位の飾布をつけ、右の方は身頃ミ見返し布ミで飾布を挟んで縫

ひます。

次に左の方を身頃にくけつけておきます。

2、肩及び脇の袋縫

3、裾の始末

4、衿及び衿附

衿の周圍を縫ふ時に飾布を挟んで縫ひます。衿附は身頃ミ斜布ミで衿を挟んで縫ひます。前の方衿がゆるまないやうに注意

5、袖及び袖附

カフスの幅出來上り四纏位にします。

袖下を縫ひカフスを作つてつけ、袖をつけます。

6、仕上げ

7、釦附ミ穴かがり

ブラウスの前中心に釦附ミ穴かがりをなしヅボンつりの釦を出來上り圖のやうにつけます。釦の数は適宜斟酌してもかまひません。又ブラウスは前の釦を飾ミし中にスナップをつけてもよろしい。

◎半ヅボン

上の形は前に述べたのミ變つて居りますが仕立方には變りありません。

こどもの詩感

新庄 よしこ

(一) 鯛は赤いけれど 焼くミ黒い 六歳 男 兒

鯛はおいしいけれど 骨がある

すごい骨がある。

口繪にあるやうに、自由畫帳の一枚にかなり大きな鯛を描いて私に見せました。描かれた鯛について私と話して居る中に、まぎれくゝに申したのが右の詩でございます。

お山つて、まんまるにかくものよ

人のあたまの半分みたいに書くものよ

これは庭の山を寫生しながらのこまばです。

東京の筈

六歳 女 兒

お日様の下に生えたの

今に竹になつちやう

(二) 同じく自由畫帳から。

きのふの粘土はかたくなつた 六歳 男 兒

今日の粘土はベタく
糊よりつよいベタく

右は粘土をしたそのあきで。

(三) ぶらんこに乗るミ涼しいな 六歳 女 兒

私の風が吹いてくる

ミても涼しい

初夏の或日、かううたひ乍ら、ぶらんこに乗つてゐる女兒を見かけました。

(一)は自由畫の際に、(二)は粘土のあきで、(三)は遊びの中で、かうして幼兒から思ひがけなく詩感を拾ひ上げるこまがあります。何げなく見える是等のこまばを、あらためて見直して見るミ、稚味の溢れてゐるのはいふ迄もなく、眞實感が躍動してゐるではありませんか。

幼兒作のものをこゝへ擧げたからミて、是を童謠の上手

なものと申すのでもなければ又所謂童謡と比較をしたり、
價値を論じたりするのでもありません。たゞ、私は、幼兒
の持つてゐる詩感を、拾ひあげたり、見つけたりしなけれ
ばならないのではないか、かう思ふのでございます。

かうして毎日幼兒と暮して居りますと、このもの詩感
が、いろ／＼の形式で現はれて居ることを知ります。自由
畫の構圖、自由切紙の缺の線、粘土製作、是等はいづれも
無言詩であつて、詩感が詩として表現される形式は、やつ
ぱり、こゝばであります。幼稚園では、うまさ、を對照はし
ない、こはいふものゝ、昨日よりは今日、今日よりは明日
へ、何ごとも進んで行くべき筈であります。繪、切紙、
粘土等についてはかなり考へられてゐるやうですが、こゝ
ばの保育については、いさゝかなほゞりではないかと思は
れます。

このこゝばの保育を考へた時、一つの方法として、こゝ
ばが、こゝばで詩感をあらはしたその機會を見のがさない
ことは、私共の使命であります。こゝばについて、チツミ見つめ
てゐたて仕方がありますまい。素直で、眞實感の一ぱい

な童謡を度々きかせり、花さか、繪さかを見せて一人一人
に、ありのまゝ、その感じを云はせて見る、こゝばのも一つ
ですが、幼稚園では、製作を機縁として、こゝばの端を引
き出す場合も多くあります。前にも述べましたやうに、
自由に畫を描かせて居て、あそこでそれが何であるかの説明
を求めて見るのが、一番たやすく拾ひ上げられるやうに思
はれます。そのために私は、小さな手帳と、鉛筆とをいつ
もふところに入れて居ります。こゝに書きこめたこゝばを
讀み返して見ますと、いよ／＼味ふかく心に沁みこんでゆ
くやうです。

但し、先生が幼兒から詩感を見つけたと喜んでゐるばか
りではなんの意味もないことであります。詩として、うた
としてその子に幾度もよんで聞かせることを忘れてはなら
ないと思ひます。

動物 河馬の手紙

濱 田 格

僕の大好きな日本の少年少女諸君！

僕は上野の動物園に居るアフリカ生れの河馬です。

河馬と云ひますが、何だか水の中に棲んでる馬の種類のやうに聞えますが、實は僕の中から何處をさがしたつて馬に似た處なんか何一つ無いのですよ。多分僕と云ふ動物に就てまだ何も知らなかつた昔の人が、遠くから僕達仲間が水の中を泳いでる姿を眺めて勝手につけた名前だらうと思ふのです。だから本當を云ふと僕は河馬と云ふ名前はあまり好きではありません。やつぱり本名のヒツポポタマス(Hippopotamus)と呼んで頂き度いものだと思つて居ます。

でもヒツポポタマスは一寸呼びにくい厄介な名前ですね。だから僕自身は短かくヒツポミだけ云つて居ますが

ネ。ヒツポなら何だか可愛いくていゝでせう。……え？

『尻尾』と間違ひさうですつて？ 溺つたなア。

西洋人達は、顔の醜い人や姿の悪い人を見るに真ぐ僕を引合ひに出して

『何だあいつの恰好を見ろよ。まるでヒツポポタマスみたいぢやないか』

なんて悪口のタネに使ひますが、僕、あんまりいゝ氣持ちは致しません。日本の人達は決してそんな言葉を使ひませんね。だから僕は日本が一番好きなんです。

こは云ふものゝ、僕の恰好は吾ながらあんまり上等だとは思へませんね。何しろ圖體の大きい事では象君の次が僕

で、僕の仲間には一千貫目以上あるのがいくらも居ます。坊ちゃんや嬢ちゃんをさつと百五十人も一緒にした程の目

方なんですもの。皮の厚さを來たらこれはたしかに象君よりすつミ厚くて八分から一寸五分位もあります。いつだが剥がした皮だけの重さが六十七貫目もあつたさうですよ。さうです、お相撲さんの横綱二人分もの目方が皮だけであるんですから呆れたものでせう。

處が、こんな大きなからだで居て、脚が四本共その割合に細くて短かいのです。だからからだの長さが十五尺もあるのに、地べたから肩までの高さは精々五尺までしかありません。その僻、顔ミ來たら途方もなく大きくて幅廣で、殊に口の大きい事は先づ以て世界一でせう。かき思ふミ、何ミまた僕の耳の小さい事でせう。眼も割合に小さくて、ひごく上の方へ飛び出して居ます。鼻の穴も上向きに突き出して居ます。

何ミ云ふ奇妙な形なんでせう。けれども、此の奇妙な形はそれ／＼僕が生きて行く爲めに大變都合よく出來て居るんですよ。それを一つお話し致します。

先づ第一に僕の耳ミ眼ミ鼻ミをよく見て下さい。此の三つが丁度同じ水平面上に一直線に竝んで居ませう。さうで

す、こんな風にちやんミ一直線に竝んでる動物が外にありませんか。だから僕がミつぶりミ全身を水の中にかくしてしまつた時でも、耳ミ目ミ鼻だけはちやんミ水面に竝んで出して置けるのです。しかもそれが皆非常に小さいから水面を流れて居る木の枝や水草の間から出して居るミ、ちつミも目に付かなくて、その下に千貫目もの大きな僕がかくれて居るミは誰も氣が付かないのです。僕は安心して四方の音を聞きながら又あたりを眺めながらそして又自由に呼吸をしながら水の中をミこまでも人知れず悠々ミ泳いで行けるのです。何ミうまく出來てるでせう。潜水艦が小さな展望鏡だけを海面に出して水の中を潜航しますね。あれは僕を見習つて人間が發明したんだらうミ僕は考へて居ますが、さうぢやないでせうか。

僕のもう一つ自慢したい事は、耳にも鼻にも、丁度皆さんのお口の唇のやうに、閉ぢたり開いたり自由に出來る仕掛けがある事です。僕がいよ／＼水の底深くもぐり込んでしまふ時には、これできつちりミ入口を閉ぢてしまひますから耳からも鼻からも水は決して這入りません。そして十

分間位は呼吸をせずに水の中に居て平氣です。苦しくなつたら一寸鼻の先だけを水面に出してブツミミききして又十分間位もぐります。

僕は元來夜歩き廻る動物で、晝間は大概水の中で晝寢をして居ます。その時は岩の上か何かに顔を乗せて、少しばかり鼻先だけ出して眠るんです。岩を枕に水中の晝寢、ミてもいゝ氣持ちですよ。

『そんな事したら水が冷たくて風邪をひきやしないか』
 ミ心配してくれた親切な子供さんがありましたが、なかに僕のからだには鯨君ミ同じで皮の下にウンミ澤山脂肪あぶらがありますから水なんかちつミも冷たく感じないのです。御安心下さい。

僕の脚が割合に細くて短かい事は茲に申しましたが、何しろ僕は陸おかに居る時よりも水の中に居る時の方かすつミ多いので、こんな小さな脚で結構なんです。なぜだかその理窟わけが皆さんお分りですか。そんな物でも水の中へ入れるミ水の壓力で目方が大變軽くなりますね。だから陸の上でこそ千貫目もある僕でも、水へ這入るミそんなに重くはあり

ません。ですから此の位の脚で十分なんです。馬なんかは陸ばかりを年中駆け廻つて居ますから、丈夫な長い脚の方が都合がいゝ筈です。馬ミ云へば皆さん、馬には蹄が一つですね。牛は二つに割れてつまり二つですね。處が僕には蹄が四つありますよ。それが平つたく四方へ開いて居ます。これは川原の石ころの上を歩く時でも水を泳ぐ時でも大變都合がいゝのです。

さうだ、僕にもう一つ自慢さして下さい。僕はかう見えてもこれで水泳にかけては大選手なんです。鯨や鰩なまこみたいなからだがるで魚類のやうに成つてるものにはかなひませんが、四本脚で陸を歩いてる動物の中では何ミ云つても僕ミ北極の白熊君ミが一番水泳がうまいのです。本當にさつちがうまいか一度白熊君ミ選手權競泳をやつて見たいミ思つて居ますが、何しろ白熊君は寒帯の動物だし僕は反對の熱帯の動物だから、同じ水の中を一緒に泳ぐわけに行かないので困りました。動物園の僕の居る池いけがもつミ広いミ、そんなに僕が水泳の達人か皆さんにお目にかけてるんですが、さうも此處は僕に取つて狭ま過ぎて實に残念

です。もつゝ大きな池を作つてくれるさいゝなあゝそればかり毎日考へて居ます。

さて自慢話ばかりでしたが、今度は少々恥かしい事を内緒で申し上げます。笑はないで下さい。それは僕がこんなに大きなからだを持つてゐる癖に、飛んでもない臆病者だゝ云ふ事です。

誰でも初めて僕の姿を見た人は、如何にも僕が犖猛な強い動物で、この大きく口でバクリ／＼ミ水の中の魚や陸の獸を襲つて居るんじゃないかと思ひますが、實は僕、とてもそんな恐ろしい真似はこはくて出来ないのです。僕は全く草食動物です。水の中の藻だの陸の草だのばかり食べて居ます。尤も大變大喰いですがね。何しろ僕の胃囊は一週に一石五斗位這入りますから、普通のバケツだつたら二十杯位の分量を一度に食べないとお腹が大きくなりません。アフリカの河や湖に居る僕の友達なんか、さうかするミ近處だけでは食物が足りなくなつて人間の畑へ作物を荒しに出かける事があります。そんな時でも眞つ暗な夜、こつそりミ足音を忍ばせてビク／＼しながら出かけるので、ミ

も晝間のそ／＼陸を歩いては居られません。ゴトリミでも聞き慣れない音がするミ、忽ち吃驚仰天、大慌てゝ水の中へ逃げ込んでしまふのです。

見かけによらずあんまり臆病なのでさうも恥しいのですが、先祖代々からの性質で仕方がありません。僕も生れ故郷のアフリカのナイル河の上流から初めて日本へ来た頃は、下駄でコンクリートの上を歩く皆さんの足音がとても怖くて／＼、一日中何も食べないで水の中ばかり潜ぐり込んで居たものです。お腹が空いて全く困つたんですが、さうにも頭が出せませんでした。近頃はもうすつかり慣れて平氣になりましたが、それでもやつぱり僕は晝間は寢て居て夜起きて歩き廻るのが好きです。だから皆さんが動物園へ僕を訪ねて下さつても、よく晝寢して居て大變失禮して居ます。夜だミすつミ起きて居ますから都合がいゝのですが止むを得ません。

それから僕、時々皆さんの方を向いて特別大きな口をカーツミ開いて見せる事がありますね。大きな鋭い牙、眞赤な廣大な舌、そして子供さんの二人位なら樂に這入れる位

な途方もない大きな口ーするぞ。

『やア河馬が怒つたア……』

「吃驚して逃げ出す子供さんなんかありますが、あれは怒つたのではないのです。」

「虎や獅子なき怒つた時に牙をむき出して口をカツミ開きますが、僕は元來臆病者ですから人間に向つて怒つて見せるなんて大膽な事はさては出来ません。僕が口を大きく開いた時は、實は非常にうれしい時なんです。全く反對ですよ。」

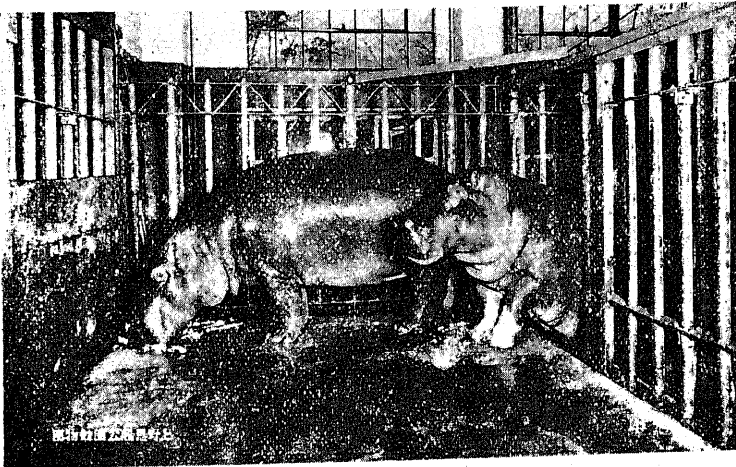
皆さんが嬉しくて笑ふ時に大きな口を開けますね。あれと同じなんです。僕は嬉しければ嬉しい程口を大きく開きます。上顎と下顎が丁度直角になるまで開けられます。

今度僕をお訪ね下さつた時、若し僕が大口を開けましたら、それはさてもうれしくて大喜びであなたを歓迎して居るしるしなんですから、そのつもりで何か食べ物でも口へほうり込んで下さい。お頼みます。

ではこれで失禮致します。さよなら。

お池の中の潜水艦

ヒツボより



馬河の園物動物園公賜恩野上

此一篇は動物生活を子どもに知らせる一方法としての試みで、幼稚園の方々の批判を願つて居ります(作者)



競争あそび

附屬幼稚園 村上露子

時には、この子供もこの子供もみんなで、體一杯の力を思ひ切り出して遊ばせ度いものも存じます。

勿論、活動性に富んだ子供は、お互ひ同士で次々に遊びを發展させ、ブランコに、お砂遊びに、兵隊ごつこに、汗だくくになつて居りますし、又大工仕事等を致しまして、鋸を使つたり、釘を打つたり、力一杯出してする事が出来ませんが、其れ等のお仲間に入れない子の事を考へなければなりません。

團體遊戯は、其の點、この子供も仲間に入り、同じだけの運動をする事になります。然し大きい組になりますと、ミかく男の子は、從來の唱歌遊戯に飽き足らず、「遊戯なんていやだ」。ミいゝ加減にいやくながらにしたり、又力

があまつてやたらに騒いだり、ふざけたり致します。

誰れもが、もつミ喜んでするもの、面白さにつり込まれて一生懸命にするもの、そして運動量の多いものがあればミ考へて見ました。

それには、唱歌遊戯の外に、この子供にも興味の多いゲーム(ミ申しますか、競争あそび、ミ申しますか)を取り入れたら、随分喜ばれる事かミ存じます。

實際に、此頃お遊戯の間に、ちよいとあそびを入れて見ますと、お遊戯なんて嫌ひだ云つて居る子供まで「又明日もしてね」。ミ申します。楽しみに致してゐる様で御座います。御参考迄に、一つ二つを御紹介申し上げます。

ボートレース



ボートレース

體育的に申しましたが、舟を漕ぐ動作は、全身の筋肉が使はれて、非常にいゝ運動になるこの事で御座います。之はお互に競争意識も手傳ひまして、随分真剣になつて致します。大變に喜んで致しますものゝ一つで御座います。

ボートレースの選手

全體の子供を四組位に分けまして、六、七人位を一組に致します。それ々の組では一人舵取りを定め、皆の方を向いて坐ります。(ほんさうのボートに乗つた様な形を作つて坐る。)選手は皆力を合せ、他の組に負けない様に、動作をそろへて一生懸命に漕ぐのです。

審判官

子供の中から一人或は二人位出して、審判官になつてもらひます。これは、この組が一番皆が動作をそろへて一生懸命に漕いだかを見て、舟の一着二着を定めます。(先生がしてもよい。)ミかく男の勢力のある子供がなりたがりますが、適當にかへる方がいゝと思ひます。なかゝ名審判官があつて、色々選手等に、す

ぢが曲つてゐるさか、わき見をしちやいかんさか、もつこ一生命懸命に漕げさか注意致して居ります。

動作について申し上げます。

○用意—審判官の用意を云ふ合圖で選手はオールを握る。舵取りは繩をもつ。

○ドン—笛を吹いても、口で云つてもよい。

選手—^{イチニイ}一二、^{サシシイ}三四、^{イチニツ}一一、^{サシ}三、ミピアノに合せて掛聲を掛けながら、

○一、二で始め前に體をまげて漕ぎ出す事。(これはよく約束して置く。)舵取りは其の反對に。(但し漕がないで繩を握つてゐるだけ。)皆出来るだけ前後に大きくまげる様に。

○三四—後に漕ぐ。

○一一—選手は前に、

舵取りは兩手を口に當て、メガホンの代りにする。

○三—選手は兩手をすつこ後にやつて、丁度オールが水を切つた様子を表はす。

舵取りは兩手を口に當てたまふ。

以下一曲済むまで今までの動作を同じ事を繰り返へす。

審判官に依つて、一着二着がきまります。勝つた組は全體少し前に進む事に致します。そして決勝の線をきめて、その線に入つた組は優勝した事にして、休んで見て居ります。一回二回を重ねるにつれて、負けるまいと顔を眞赤にしながら、掛聲も勇やしく、ぐんぐんピッチをあげます。それでピアノもだんぐテンポを早めて弾きます。

之はも、複雑な振りが付いて居りましたのを、こんな風に、簡単に遊べる様に致して見ましたもので御座います。

兎と龜の競争

二組に分れて圓陣を作ります。そして、それぐの場所にチヨークで圓を描きます。兎の競争を致します。合圖と共に、一人が兩足をそろへてビヨーンとびながら自分の組の圓の廻りを右廻り致し、自分の場所の右側の人の肩をポンとたたきます。たかれた人が次に出るを云ふ風にして、競争の済んだ者は右隣の人の圓の中に入つてしゃがんで待つ事に致します。まごつかないで、うまく競争

が進行致します。縦に列んでするよりも樂に出來ます。これは、鬼だけの競争、龜だけの競争、兩方一緒の競争ミ云ふ様に色々變へて致しましたら面白う御座います。其の他の動物競争に致しましても結果ミ致しましてはミぶか四つ這ひになるかで同じ事で御座います。

鬼ごっこする者よつといて

三、四年前に戸倉先生におしへて頂いたもので御座います。極簡単な歌詞に付けられた遊びで御座います。

始め一曲の終りまでめい／＼一人で好きな方向にスキップで行き、二曲目の始めに、お友達を探して手をくみ、スキップでどこへでも参ります。二曲目が終ります。

二人で足でジャンケンポンを致します。この足でするのが大層面白さうで御座います。

ジャンケンポンで喜んで兩足を揃へるミ石。兩足を横に開くミ紙。縦に開くミ鉄になります。負けた人は鬼になつて、相手を捉へます。つかまつたら腰掛けて待つて居て、(皆が捉へられてから)又一等始めつから繰り返して致します。

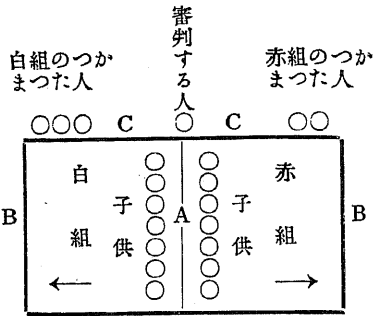
おにごっこ

♩ = 120 元氣よく

オニゴツコ スルモノ ヨツトイデ

オニゴツコ スルモノ ヨツトイデ

これは何ミ名をつけてよろしいかわかりませんが圖の様に適當に線を引き赤白の組に子供を分けて、A線を境に向ひ合ひます。(子供に赤帽白帽をかぶせれば尙はつきり致し



事。皆捉へられたら負けになります。

椅子とリ

多分御存じの古くからある遊びで御座いませうが、雨の日等、室内で遊びますのに喜ばれる事で御座います。マーチだけの知つてゐるお唱歌を弾いて音が止むミ大

ませう。) 審判する人(先

生が「赤」云へば赤組の人が逃げて、白組がおつかける。「白」云へば白組が逃げて、赤組がおつかける様に約束致します。逃げた時にB線内でつかまつた人は、C線外にしやがんで待つて居る

急ぎで椅子に腰かけます。椅子は圓形に並べ子供の數より一つ少く致して置きます。腰掛けられなかつた人は、椅子を一つ持つて、外へ出ます。最後の一人はぎなた？

* * *

古くから傳はつて参りましたあそびの中にも、随分今も尙よろこばれて、しきりに致して居るものが御座います。それ等も自由遊びの中に適當に導びけば、随分面白いか存じます。

花いちもんめ—多分御存じで御座いませう。

これを誰れかゞ始めますミ、「僕も入れて」「私も」ミ方々から子供が集まつて参ります。一組全部、多い時には他の組の子供までがお仲間に入つて参ります。

先日、あまり面白さうに池の組の方がしていらつしやいましたので、つひつり込まれておぢちゃん(倉橋先生もお仲間にお入りになり、菊池先生も、私も、山の組も、森の組もお仲間に入れて頂きました。一時間位も續きましたか。誰も彼も汗びつしよりで御座いました。

あらためて御紹介するまでもないミは存じますが、ミに

かく古くからの遊びにして、今も面白く遊んで居りますま
まに記させて頂きます。

二組に分れて向ひ合ひます。一組宛手をつなぎながら、

A組「ふるさつまごめて花いちもんめ」

でA組は三足歩いて四歩目は片足でピョンピョンで元へか
へる。

B組「ふるさつまごめて花いちもんめ」

A組と同じ動作をする。

A組はみんなご相談の上、B組の誰かを指名して、

A組「花子さんがごりたい花いちもんめ」

以下動作は同じ。

B組「二郎さんがごりたい花いちもんめ」

そこで指名された二人は中央に出て来て、ひつぱりつこを
する。全身の力をこめて、他の子供も自分の組が勝つ様に
ご、力瘤を入れて應援致します。A組の二郎さんが勝ちま
した。

A組「勝つてうれしい花いちもんめ」。

B組「負けてくやしい花いちもんめ」

A組「ふるさつまごめて花いちもんめ」

.....

ご同じ事を繰り返へします。

この外、やつぱりお庭なんかでよく致して居ります鬼ご
つこも、随分色々形を變へて遊ばれて居ります。

丸鬼、ため鬼、しやがみ鬼、陣なし鬼、影ふみ等。

時にはこんなあそびに、いつもおきなく引込んでゐる
子供等を連れ出して、なるべくみんなで遊ぶ様に仕向けて
見るのも如何で御座いませう。

* * * * *

つまらない例ばかりを記しましてお恥しう御座います
が、或る時にはこんな事を致して、先生も一緒に子供にな
つて、汗びつしよになるのもご存じまして。

内氣な子、體の弱々しい子等、お友達もあまり遊べな
い子供でも、先生が先づ其の子供等と一緒にこれらの遊び
の仲間に入りますご、つい面白さにつり込まれて、珍らし
くも赤く色ついた頬をかゞやかして居るのを見ます。

何かの御参考になれば幸せに存じます。

王女の猫の話

— カレル・チャペック —

中野好夫譯

昔、ある國に王様がいらつしやいました。大變幸福な王様で、ご申しますのは、人民達はよく王様の御命令を守りますし、いざこいふ場合には、みんな大變忠義な人達でありましたから。ごころが時々、たつた一つ困つた例外が御座いました。それは可愛らしい王女様でありました。

ある日王様は、この王女様に、お城の石段で手毬遊びをしてはいけません、かたきお命令いひつけになりました。それがさうでせう。乳母がほんの一すうさくしてゐた間に、もう王女様は手毬をもつて石段へいらつしやいました。天罰でせうか、それこそ悪魔の悪戯なのでせうか、王女様はごうした機みか石段をコロコロと轉んで、お膝に怪我をなさいました。で王女様は石段に坐つて、大聲で泣いていらつ

しやいました——ほんきに、もしこれが王女様でなかつたならば、四邊近所にわめき散らしてゐたと言つた方がよいかもしれません。侍女達は早速、綺麗な水晶の水鉢を持つてくるやら、絹の繻帶を持つて来るやら、あはてふためいて飛んで參りました。まだそれから十人のお醫者ご三人のお坊様が見えましたが、誰一人王女様の痛みをなほすごこちが出来ませんでした。

丁度その時一人の老婆が、ピッコを引きながら、お城の前を通りかゝりました。王女様が石段で泣いていらつしやるのを見るに、つか／＼と跪いて、やさしくこう申しました。『王女様、王女様、ヤレ／＼お泣きになるものぢや御座いません。この婆やがそれはそれはいゝものを差上げませ

うから。それは眼はまるでエメラルドの様に緑い眼をして居ります——でも誰も盗つて行きやしませんから。それから、こんなに長いお髻も御座いますよイエイエ、人間ぢや

御座いませぬとも、そうそう、それからキラ／＼火花の出る毛皮を持つて居りますよ、エ、でも火傷やけどなんぞ決してしやしませんから、それから絹の足指を持つてますよ、しかも決して摩り切れたりなんぞしない……それからまだ、衣囊かぶの中には十六本の小刀を持つてみましたつけ、でも無論お肉なんぞを切るんぢや御座いませぬ。サアこの婆やが、そんないゝものを持つて来て差上げますから、王女様はきつ／＼お泣き止みになりますね。』

王女様は驚いてお婆さんの顔をじつ／＼御覽になりました。まだ片つ方の眼には涙がキラ／＼光つて居りましたが、一方の眼はもうニコ／＼と笑つていらつしやいました。『でも婆や、王女様は仰言ひました。』でも婆や、そんなものゐないぢやないの。』

『イ、エ、居りますとも、居りますとも。』婆やは申しました。『その代りに王様がこの婆やの欲しいものを下さるな

らば、婆やは直ぐ持つて参りますよ。』そう言つてまた婆やはトボ／＼と行つてしまひました。

王女様はまだ石段の上に坐つてゐましたが、もう泣きやんでゐらつしやいました。そしてそんな黙つて一體さんなものだらうと考へてゐらつしやいました。しかし、婆やが行つてしまつて、もう結局それが貰えないのだと思ふと、王女様は急に悲しくなつて、またしてもシク／＼泣き出してしまひました。丁度その時王様は窓から外を御覧になつてゐらつしやいましたが、何故そんなに王女様がお泣きになるのか、お訊ねになりました。する／＼直に一部始終はお解りになりました。知らない老婆がいかにも上手に王女様をなだめて泣きやませた話をお聞きになりますと、王様は大にや顧問官にかこまれてもこの玉座にお著きになりました。がさうしたことが、老婆の言つた黙のことが妙に王様の頭にこびりついて居りました。そして幾度も獨り言を仰言ひました。『成程、エナラルドのやうな眼をもつて、だが誰も盗つて行きはしない。こんなに長い髻があつて、それでゐる人間ぢやない。毛皮から火花が出る、だが火傷は

しない。絹の足指をしてゐるが、摩り切れはしない。衣囊には十六本の小刀を持つ、が無論肉を切るのではない。ハテナ？」大臣達は王様が何かしきりに獨り言を仰言つては、頭をうなづいて見せたり、さうかと思ふに兩手で御自分の顎に長いお髻でも生えてゐるかのやうな恰好をして御覧になるのを見て、何の事だか合點が参りませんでした。で到頭老内大臣長が恐るゝ王様にお伺ひ申上げました。

『いや實は考へ事をしてゐるのじや、一體それはどんな駄だらうと思つてな。』王様は仰せられました。『エメラルドのやうな眼をもつて、だが誰も盗つて行きはしない。こんなに長い髻があつて、それでゐて人間ぢやない。毛皮から火花が出る、だが火傷はしない。絹の足指をしてゐるが、摩り切れはしない。衣囊には十六本の小刀を持つてゐる、が無論肉を切るのではない、ミ申すのだが、ハテ、何物だらうの。』

サア、今度は大臣達や顧問官達が首をひねつてみたり、顎から長い髻が生えてるやうな恰好をしました。一向何んだか思ひ當るものもありませんでした。で到頭老内

大臣が一同に代つてお答へ申上げました。老内大臣は、そつくりあの王女様のやうに、でありますが、陛下、そのやうなものは居りません。存じ上げますが。』

でも王様はお聴入れになりませんでした。で結局王様は老婆の家へ至急のお使をお遣はしになることに決まりました。使者は馬の蹄から火花を散らして、宙を飛んで馳けて参りました。成程、老婆はお家の門口にチャンミ座つて居りました。

『コレコレ、老婆。』使者は馬の上から大聲に叫鳴りました。『陛下の仰せである、即刻その駄ミやらを持つて参るやうに。』

『ハイ、ハイ、お要用ならば差上げませうとも、』お婆さんは答へました。『たゞ御褒美には、太后様のお帽子に下に伏せられますだけの銀貨をこの婆やに下さいますならばな。』使者は再び宙を飛んで歸つて参りました。土煙りが大空まで立登りました。

『陛下、』使者は復命致しました。『老婆の申しますには、褒美にして、太后陛下の御帽子の下に伏さりますだけの銀

貨をお下げ渡し下さいますならば、早速に持参致します
 ミ、斯様に申して居りまする。』

『それは大した事ではない。』ミ王様はお考へになりました。
 で、それでは望み通り銀貨を遣はそうかいふ、堅いお
 約束をなさいました。王様は直ぐその足で太后様のお部屋
 へいらつしやいまして、『お母さま』ミ王様は仰せられま
 した。『實は一人客人が見えますが、さうかお母さまには小
 さい帽子を、そうです、あの一番小さい、お母様のお髪ぐし
 けがほんの少しかくれるあれをお著げ下さいますように。』
 太后様は王様の仰せ通りになさいました。

やがて老婆は、背中に嚴重にシヨールでくるんだ籠を一
 つ背負つて、官殿にやつて参りました。王様はもうチャン
 ミ、太后様、王女様も御一緒に廣間にお出ましになつてい
 らつしやいます。大臣、顧問官、將軍、知事達も一同ずつ
 ミ左右に居流れて、みんな片唾かたづをのんで待ち構へて居りま
 した。老婆はひびく悠然ミシヨールを解きにかゝりまし
 た。王様はよくその獸を御覽にならうかいふので、もう玉
 座から一足二足乗り出してさへ居られます。到頭老婆はシ

ヨールをサツミ引ひて取りました。するミ籠の中からは黒
 い猫が一匹ビヨイミ跳び出して、チヨンミ玉座の上に畏し
 こまりました。

『だが、コレコレ、老婆』がつかりして王様は叫ばれま
 した。『その方はわしをだましたな。これは何だ、猫ぢやな
 いか。』

老婆は兩手を腰にあてゝ申しました。『何で御座いますつ
 て。妾が陛下をおだまし申したミ仰せられますが、さうか
 御覽下さいませ。』老婆は猫を指して大聲で申しました。猫
 は玉座にチヨコンミ座つて居ります。眼はまるで、素晴ら
 しいエメラルドのやうに輝いて居ります。『サア、御覽下さ
 いませ。あの眼はエメラルドでは御座いませんか。しかも
 誰一人盗んで行かうかいふ者は御座いません。それから、
 王様、チャンミ髻も持つて居りまする、それでゐる人間で
 は御座いますまい。』

『だが、コレ老婆、』王様は仰せになりました。『その猫は
 黒い毛皮をしてゐるではないか。一向に火花は出はしな
 い。』

『一寸お待ち下さいませ。』「老婆は言葉を返へしました。そして猫の背中を逆になで上げました。するに成程、かすかにピチ／＼いふ小さい電氣の火花のやうな音が聞えました。『その次は足指で御座いますが、』「老婆は言葉を續けます。『これこの通り絹のやうな足指で御座います。王女様がたゞへはだして、そして爪先で御歩きになつたにしても、さてこうは靜にお歩きになれるものでは御座いません。』

『イヤ、成程、解つた。』流石の王様も仕方なしに仰せになりました。『だが、コレ老婆、衣囊だの、十六本の小刀だの、ご申すのは一向見えないではないか。』

『その衣囊ご申しますのは、』老婆は申しました。『ホレホレ、この足指に御座います。そしてこの一つ一つにまるでよく切れる小刀のやうな爪が御座いますので、ハイ。さうぞ一つ御勘定なすつて下さいませ、チャンと十六御座いますから。』

王様は老内大臣に、前へ出て爪の数を數へてみるやうに御會釋なさいました。老内大臣は恐る／＼猫の片足をつか

まへて、さて勘定しように致しましたが、猫は忽ちフツツと唸るに、いきなり稻妻のやうに老内大臣の眼の縁を引かきました。

老内大臣は眼を押へて跳び上りましたが、『陛下、手前の眼はもう霞んでしまつて居りますが、何でも澤山御座いますやうで。手前にも四つははつきり勘定出來ましたように存じますが。』

で王様は今度は、侍従長に爪を數へてみるやうに御會釋なさいました。侍従長はよく勘定出來るやうに猫を兩手で押へましたが、これも忽ち眞赤になつて、鼻を押へて、跳び上りましたが、『陛下、ではみんなでたしかに十二は御座います。手前は八つは勘定致しました、つまり左右に四つづつ。』

そこで王様は今度は、議長に爪を勘定してみるやうに御會釋なさいました。だがこの議長閣下は、猫の側へ顔を寄せるや否や、ひびく引かゝれた顎を押へてまたしても跳び上りました。陛下、たしかに十六本、よく切れるやつで御座います。手前たしかに残りの四つを勘定致しまして御座

います。』

『ヤレヤレ、何をしたものであらう。』王様は溜息をおつきになりました。『さていよいよ褒美をやらねばなるまい。だが、コレコレ老婆、其方はごうも仕様のない奴ぢや。』

そこで王様は卓の上に銀貨を列べるやうに御命じになりました。そして太后様の頭の可愛らしい帽子をお取りになつて、銀貨の上にお伏せになりました。でも何しろ恐ろしく小さいので、たつた五枚の銀貨しか伏さりませんでした。

『コレコレ老婆、ソレ銀貨五枚ぢや、其方にさらせる。』王様は意外に安く濟んだのにホットしながら、仰せになりました。

するに老婆は頭をふり申しますには、『王様、それは御約束では御座いません。陛下は、妾に、太后様のお帽子の下に伏さる数だけの銀貨をさらせるに仰せになつたでは御座いませんか。』

『それがぢや、ホラ、其方も見る通り、帽子の下にはたつた五枚しか伏さららないではないか。』

老婆は帽子を手にまつて、なでてみたり、クルクル手の中で廻したりして居りましたが、悠然と申しました。『太后様のお頭の銀色のお髪は世界中で一等結構な銀かま、妾は存じまするが、ハイ。』

王様は老婆を御覧になり、それからまた太后様を御覧になつて、靜に申されました。『成程、それはその通りぢや。』

するに老婆はソーツに帽子を太后様のお頭にのせて、真白い髪を撫でて申しました。『では、王様、太后様のお帽子の下になりました銀色のお髪かみの毛の数だけ、銀貨を頂戴致し度う御座います。』

王様はすつかり仰天なさいました。額に深い皺をお寄せになりましたが、やがてニツコリお笑ひになつて、『イヤハヤ、其方は實にさんでもない奴である。』と仰言ひました。

でも約束はごこまでも約束です。王様は老婆の要求を聽いてやらない譯にはゆかなくなりました。で王様は太后様にお座りになつていたゞいて、それから大藏大臣をお呼び出しになつて、太后様の帽子の下に、お髪かみの毛が何本伏さつてゐるか勘定をお命じになりました。サア、そこでいよ

いよ勘定が始まりましたが、太后様はじつこ身動き一つしないで座つていらつしやるうちに——到頭ぐつすりお寝みになりました。

お寝みになつていらつしやる間も、大藏大臣は一本一本お髪の毛を勘定して居ります。で丁度千本目を数へてしまつた時、多分一寸強くお引きしたものでせう、太后様はふこお目醒めになりました。

『オヤ、』太后様は仰せられました。『其方達は何故妾を起しましたか。妾は大變不思議な夢を見て居ました。それはこの次の王様が丁度この國の國境をお越しになつた夢です。』

こ、老婆は急に跳び上つて、おぎおぎしながら申しました。『それは奇妙で御座いまするな。實は手前の孫めがほんの今日隣國から私共の家へ参りましたので御座います。』しかし王様はそれには耳にも藉さずに仰せになりました。『お母さま、それは何處からで御座います。その次の王さまは何處の王家から参つたもので御座います。』

『それは妾も知らない。』太后様は仰言ひました。『こい

ふのは其方達が妾を起してしまつたからぢや。』

その間も大藏大臣は一心不亂に勘定をつゞけて居ります。そして太后様はまたうきうきお寝みになりました。

丁度二千本目に來た時でありました、またしても銀のお髪を強くお引きしたものでせう。

『でもまた、何故妾を起しました。』太后様は仰せられました。『妾は今丁度、その新しい王を連れて來る者が誰れあらう。この黒い猫だこいふ夢を見てゐたところですよ。』

『お止しなさい、お母さま。』王様は驚いて仰せになりました。『猫が人を連れて來るなんて、何處にそんな話があるものですか。』

『でもその通りなのですよ。』太后様は仰せられました。ヤレ、もう一眠りしませうわい。』

でまたしても太后様はお寝みになりました。大藏大臣の勘定はまだ一心不亂につゞいて居ります。三千本目——丁度それでおしまひでありましたが——に來た時に、またしても大藏大臣の手が思はず震へて心ならずもグイ、銀色のお髪を引張つてしまいました。

『ほんきうに、怪しからん人達です、あなた方は。』太后様は大聲で仰言ひました。『年寄りをちつこも眠らせないなんて。妾は今丁度新しい王様が家族みんなを引連れて此處へ來られる夢を見て居りました。』

『ネ、お母さま、失禮ですが、そんな馬鹿なこゝは御座いませんよ。』王様は仰せになりました。『城全體を一緒に持つて來るなんて。』

『そんな放漫なこゝを言ふものではありません。』太后様は王様をおたしなめになりました。『こんなこゝが起るか解るものではないのだから。』

『それで御座いますこゝも。』こ老婆が合槌を打つてうなづきました。『太后様の仰せの通りで御座いますよ。王様、ある時ジブシーの占者が、亡くなりました手前の連合つれあひひにこゝ申したこゝが御座います。——あんたの所有物もつもの全部を雄鶏たつた一羽でついばんでしまふ時が來るからつて、そう申しましたので御座いますが、あゝ、可哀相に、その時連合ひは丁度王様と同じやうに、占師さん、そんな馬鹿なこゝがあるものかね、こゝそう申しましたよ。』

『何に!!』王様はひびくせきこんでお訊ねになりました。『ごうぢや、それがみんな偽だつたであらうがの。』

老婆はシクシク眼を拭ひはじめました。『こゝろがそこで御座いますよ。ある日、赤い雄鶏が一羽飛んで参りましてな、ソレ、王様。大事のこゝで御座いますよ。何にもかにも一切合財持つて行つてしまいました。それからつてものは、連合の氣が變になりましたな、そこら中を歩き廻つては、占師の云つた通りだ、言つた通りだつて、そう言つて暮して居りました。可哀相に、天國へ行つてもう二十年になりますだがな。』

到頭老婆は大聲に泣き出しました。太后様は老婆の頭を抱いて、頬をソーツミ撫でておやりになり、『泣くのぢやありませんよ、妾までが涙が出そうになりました。』

これには王様もすつかりお驚きになつて、早速銀貨を御命令になりました。一枚一枚卓の上に列べて、到頭全部で三千枚、丁度太后様の帽子の下になつたお髪ぐみの毛の數だけになりました。『サア、老婆、持つて參るがよい。其方のやうな者が居てはわしも金持にはなれそうにもないわい。』こ仰

せになつて王様は御笑ひになりました。

老婆も笑ひました。人々も一緒になつて笑ひました。老婆は大きな衣囊の中に銀貨を詰めこんで、それから残りは籠の中にザク／＼入れましたが、サア重い／＼重い／＼、さうしても持ち上げる事が出来ません。到頭二人の將軍さま様御自身で手をお借しになつて。ヤットコサ老婆にその籠を負はせておやりになりました。老婆は丁寧に頭を下げる／＼、太后様にさようならを申上げ、そして最後にも一度あの黒い猫——スーザンといふ名前の猫でした——を見ました。しかしスーザンは何處にも見えません。老婆はグル／＼見廻しながら、スーザンや、スーザンやと大聲に呼びましたが、猫はニヤン／＼も答へません、その時老婆はふみ玉座の蔭から小さな人間の足が二本突き出するのに気がつきました。老婆はソーツミ近よつてみる／＼、王女様が玉座の隅つこで、ぐつすりお寝みになつて、しかもそのお膝の上でスーザンが靜かにゴロ／＼咽喉をならして居ります。老婆は衣囊の中へ手を入れたと思ふ／＼、銀貨の一枚／＼出して、王女様の手の中へソーツミ入れました。しかし老婆

が若し形見のつもりで銀貨を置いて行つたもの／＼すれば、それは大變な當違ひでした。王女様は目を覺まして、お膝の上に猫／＼、手の中に一枚の銀貨を見つめます。王女様は大急ぎで猫を抱き上げ、サツサミお菓子を買ひに出かけました。でも多分老婆はそれ／＼へ知つてゐたのでせう。

王女様が未だ眠つていらつしやる間に、老婆は／＼／＼にお家へ歸つて、一度に／＼／＼お金が出来たり、スーザンがあんなに可愛い王女様に飼はれる／＼／＼になつたり、でもそれ／＼／＼もまして、可愛い孫のジョニーがお隣の國から歸つて來たので、すつかりお婆さんは上機嫌でありました。

(つづく)

お知らせ

倉橋惣三氏は、この夏、朝鮮にお出かけになる御豫定で、講演は、京城に於て八月二日から三日間開かれるといふ／＼／＼でございます。

日本幼稚園協會編輯 幼兒の教育

會長 東京女子高等師範學校長 吉岡郷甫
 主幹 東京女子高等師範學校教授 倉橋惣三
 附屬幼稚園主事

日本幼稚園協會規則

第一條 本會ハ幼兒教育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二條 本會ハ日本幼稚園協會ト稱ス

第三條 會員タラントスルモノハ幼稚園ニ關係アルモノ又ハ幼兒教育ニ篤志ナルモノトス

第四條 會員ハ會費トシテ一ヶ月金參拾五錢ヲ齎出スヘシ、會員ハ無料ニテ本會發行雜誌ノ配布ヲ受ケ又本會ノ事業ニ關シ諸種ノ便宜ヲ受ケ

第五條 令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益アリト認ムルトキハ特ニ請ヒテ客員トナスコトアルヘシ

第六條 幼稚園ニ關係アルモノニシテ本會ノ事業ノ爲ニ特ニ盡力ヲ與ヘラル、モノニ請ヒテ地方委員トナスコトアルヘシ

第七條 本會ハ毎年一回總會ヲ開ク。但場合ニヨリ臨時休會スルコトヲ得

第八條 本會ハ左ノ事業ヲ行フ

- 一、幼兒教育ニ關スル研究及ヒ調査
- 一、幼兒教育ニ關スル講演會及ヒ講習會ノ開催

會ノ開催

一、雜誌發行(毎月一回)

一、幼兒教育ニ關スル圖書刊行

一、保姆就職及招聘ニ關スル仲介

一、其他本會ノ目的ニ裨益アリト認メタル事件

第九條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

會長 一名 會務ヲ總理ス

主幹 一名 會長ヲ補佐シテ會務ヲ掌理ス

幹事 若干名 會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ分掌ス

評議員 若干名 重要ナル事件ニ關シ會長ノ諮詢ニ應ス

第十條 會長ハ客員中ヨリ推薦スルモノトス

第十一條 主幹 幹事 評議員ハ二ヶ年ヲ期シテ會長ヨリ推舉スルモノトス

定價

一ヶ月分	金參拾五錢
半年分	金貳圓拾錢
一年分	金貳圓拾錢
拾貳冊送	金四圓貳拾錢
拾貳冊送	金四圓貳拾錢

特等面一頁二等面一頁
 金參拾圓金貳拾圓
 一等面一頁一頁以下
 金貳拾五圓御斷
 神田區駿河臺ノ言田
 廣告社ニ御申込下さい

(外國行郵税ハ一部金拾貳錢ノ割ニテ御拂込下さい)
 昭和九年六月十五日發行
 昭和九年六月十五日印刷納本
 幼兒の教育 第三十四卷 第六號

不許複製 禁止轉載

編輯者 倉橋惣三
 印刷者 柴山則常
 東京市本郷區駒込林町百七十二番地
 印刷所 會社 杏林會
 東京市小石川區大塚町三十五
 東京女子高等師範學校附屬幼稚園內

發行所

日本幼稚園協會
 振替口座東京一七二六六番

注 文 規 定

- 一、本誌御注文の方は凡て前金(郵税共)で願ひます。(郵券代用の場合には總て一割増)
- 一、御送金の場合にはなるべく振替貯金で振替口座東京一七二六六番日本幼稚園協會宛に願ひます。
- 一、送金の節には第何巻第何月號より第何月號迄と明記せられたし。
- 一、本誌の代金に對しては別に領收證を差出しません。特に御入用の方は往復はがきで御申帳を願ひます。
- 一、會費切又は前金切の際にはその最終發送の雜誌の帶封に「前金切」の印章を押捺いたしますから其節は早速御送金を願ひます。
- 一、本誌の見本御入用の場合には前金參拾五錢發送を願ひます。

東京女高師主事堀七藏先生著

四六版三百頁
參考寫真數枚

定價二圓五十錢
送料十六錢

我が兒の科學教育

奈良女高師教諭兼訓導 幾尾純先生著

菊版四五四頁
美麗口繪入

定價三圓五十錢
送料十八錢

私の音樂教育

奈良女高師教諭兼訓導 幾尾純先生著

四六版三百頁
寫真入頗懇說

定價二圓五十錢
送料十六錢

音樂教育

東京高師訓導兼教諭 青柳善吾先生著

三四四頁
版

定價二圓五十錢
送料十六錢

私の唱歌教授

東京音樂學校教授 高折宮次先生編

菊二倍版 定價金九十錢
高尚優美 送料金十錢

本敵新ピア

文部省檢定濟 師範學校音樂科用 昭和八年十月十九日檢定濟
高等女學校音樂科用 昭和八年十月十九日檢定濟

發兌 社會資合式株書圖洋東 京阪大

番七三〇一京東替振・七六目丁一町保神・區田神市京東
番六五五九三阪大替振・地番八二目丁一町寺堂安內・區南市阪大

〔洋東は本・士富は山〕

夏休み前からお休みへかけて

涼しい、おみやげ品の手技材料と
お子様方の遊ぶ保育品のいろいろ

御用意はたどいま!

◇團扇——淡い、紅、黄、紫、緑、水色の五種。何れも貼紙クレ
オン等で圖案を施して用ひます。

◇紙舟——茶ボールに印刷した厚紙細工、剪つて開き紙でとめ、
クレオン、色テープ等で意匠し、水に浮かせます。

◇木舟——木製のお舟、エナメルで仕上げ、水に浮かせます。

◇噴水——水槽・水管・噴水孔付水盤の一揃。一揃 金拾圓

◇ポンプ——消防用の機構を小型にした全部金屬製、ラツカー塗
装、ホース付。一臺 金拾五圓

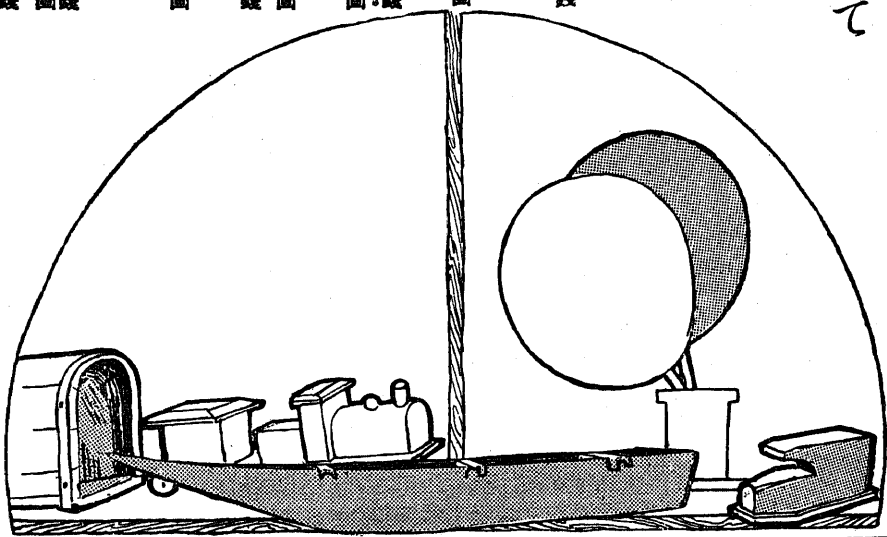
◇籠吐水——木製にして堅牢。一個 金貳拾圓

◇撒水車——ハンドルで撒水の調節自由、利用の範圍の廣いもの。
一臺 金拾貳圓

◇砂場用具——一號品はバケツ・樹・木鋤・新案杓子。二號品鐵
製シヤベル・ホーレーキ・ホーク・板箕・篩。

◇砂場の汽車とトンネル

一號	一組	金七拾圓
二號	一組	金壹圓
一組		金壹圓參拾圓



館ルベール社會式株

番七二八三(33)段九話電・路小川今・田神・京東 店本
番八三九一町本話電・五町後備・區東・阪大 所攝出

昭和四年五月十五日第三種郵便物認可
(毎月一回 十一月十五日發行)
昭和九年六月十二日印刷納本
昭和九年六月十五日發行

定價三十五錢